
ポケモン不思議のダンジョン 誓い S P

ユウキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケモン不思議のダンジョン 誓い SP

【Nコード】

N8978J

【作者名】

ユウキ

【あらすじ】

ポケダン誓いのキャラ紹介や裏話、スペシャルエピソードなどをやっていきたいと思っています

キャラ紹介 改訂版

皆さんこんにちは。ユウキです。今回はキャラ紹介をしようと思います。

ユウキ

「急にどうしたんだ？」

君達の細かい所を紹介しようと思ってね

リサ

「私達を？」

うん

ユウキ

「紹介出来るほどキャラいないだろ」

いいじゃないか！（泣）

チサ

「作者さんがやりたいならいいよ♪」

ありがとう（泣）

ではまずユウキから

ユウキ

「嗚呼」

ユウキ

種族 ピカチュウ

性別 オス

年齢 推定16〜18

ポケモンになってしまった元人間。あまり人付き合いが得意ではないが、リサと出会ってから少しマシになった。といってもやはり無愛想なのにはかわりない。

興味があるものには積極的だが、興味が無いものには見向きもしない。

仲間のこと（特にリサのこと）になると、深く考えこんでしまうことも。

戦闘スタイルは、格下相手には力で圧倒し、格上の相手には冷静に分析して作戦を立てて勝利に導く。チームで戦う時の参謀役。

元人間の時に体格が大きかったのか、普通のピカチュウより少し大きい。

過去を変えたことで、タイムパラドックスが起きて一時期消えていた。だがディアルガの慈悲により、リサ達の世界に復活。再開したりサに告白し、両思いになった。

こんな感じかな？

ユウキ

「……まあいいだろう」

次はリサだよ

リサ

「うん！」

リサ

種族 アチャモ

性別 メス

年齢 14

ユウキのパートナー。父のルカリオの影響で昔からお宝や未知の大
陸などの話が好きで、いつかは探検隊になりたいと思っていた。

昔のトラウマでスピアーが大の苦手。

ユウキと出会った時は臆病だったが、時が経つにつれて、段々と
勇気が出るようになった。

戦闘スタイルは遠距離からユウキの援護をするのが基本。一匹の
時は持ち前のスピードを生かした戦いを好む。

普通のアチャモより少し小さい。

ユウキの事を誰よりも想っている。ユウキのカッコイイ所を見た
り、励まされたりすると顔を赤らめてしまう。ユウキと再開した時
に告白され、晴れて両思いになった。

どうかな？

リサ

「……………（照）」

ユウキ

「……………」

なんか使い物にならなくなってしまった

では次はジンだよ

ジン

「僕ですか？」

うん

ジン

種族 リオル

性別 オス

年齢 16

チームマシンガンのリーダー。礼儀が正しく、しっかり者。幼少時代に、村が盗賊に襲われ、その時に生き別れになった姉、テイルを探すために探検隊になった。

戦闘スタイルは相手に連続で攻撃し、相手に反撃のチャンスを与える前に倒してしまう。性格とは裏腹に猪突猛進なスタイル。

チサとは幼なじみで、固い友情で結ばれている。

こんな感じかな

ジン

「いいですね」

では最後にチサ

チサ

「いえーい！」

チサ

種族 ミミロル

性別 メス

年齢 13

チームマシンガンの一員でジンのパートナー。いつもテンションが高く、周りのポケモンやジンですらついていけない時がある。明るさとお気楽な所から、軽いポケモン扱いされることもあるが、自分で決めたことは最後まで貫き通す心の強さも持っている。

戦闘スタイルはジンのサポートをしながら遠距離攻撃や近距離攻撃をバランス良く使う。性格とは裏腹に縁の下の力持ちタイプ。

時々突拍子もない発言をしてジンを困らせることもしばしば。

どうかな？

チサ

「いいんじゃないかな〜♪」

では今回のキャラ紹介はここまでです。

リサ

「バイバイ！」

では！

皆と駄弁ろう！

皆さんこんにちは。ユウキです。今回はキャラ達とトークでもしようと思います

ユウキ

「テスト勉強しろよ」

息抜きさ♪

リサ

「……………」

そんな目で見ないで〜（泣）

ユウキ

「んで？何するんだ？」

とりあえず駄弁ろうかな〜って

チサ

「いいんじゃないかな〜♪」

ジン

「作者さんに前から聞きたいことがあったんですよ」

なに？

ジン

「僕達の種族や性格はどうやって決めたんですか？」

今聞くことか？

ユウキ

「俺も興味あるな」

リサ

「私も！」

わかったよ！

とりあえず前にも話した気がするけど、リサは種族、キャラ共に即決だったんだよ

リサ

「そうなんだ」

うん。臆病だけど、前向きで優しい性格ってのが初期設定だよ

ユウキ

「あまり変わってないな」

君も殆ど変わってないよ

ユウキ

「そうなのか？」

うん。種族は少し考えたけど性格はすぐ思いついたんだ

チサ

「クールキャラってこと？」

そうゆうことさ♪

ちなみにチサもまるで変わってないね

チサ

「そっか♪」

ジン

「種族をミミロルにした理由は？」

ミミロルが好きだから

ユウキ

「単純だ……」

ジンは初期設定から結構変わっているんだ

ジン

「そうなんですか？」

最初はやんちゃでなんにでも首を突っ込むタイプだったんだけど、
それだとチサと少し被ると思ってね、真面目で礼儀正しい性格にしたんだよ

ユウキ

「かなり違うな」

リサ

「確かに」

チサ

「クロは？」

まだあまり出番がないから明かせないよ（汗）

ジン

「残念ですね？」

クロ

「全くっす……」

いたのか？

クロ

「今来たっす」

そっか

まあ、結果的にはあまりキャラを考えるのには苦勞してないんだよ。
逆に名前は考えたよ

リサ

「そうなの？」

うん。何故かそっちの才能はないみたいで。仕方ないから知り合い
の名前を使ったり（笑）

ユウキ

「まじかよ（汗）」

クロ

「気合いで考えるっす！」

無理でした……

ではそろそろテスト勉強に戻らねば……

リサ

「しっかりやらないとね」

うん！

では今回はこの辺で！

クロ

「バイバイっす！」

キャラ紹介2

皆さんこんにちは。ユウキです。今回は前回紹介していなかったポケモンの紹介をしようと思います。

ミズキ

「テスト真っ盛りなのに三日連続投稿って何考えてるのよ？」

気にしない気にしない♪

今回はチームマシンガンのクロとチームシャインのミズキです。

クロ

「燃えるっすー！」

ミズキ

「私達の紹介？」

そうゆう事♪

まずはクロ

クロ

種族 イーブイ

性別 オス

年齢 15

チームマシンガンの一員。とても熱血漢あふれるポケモン。ジン達とはあるきっかけからジンを気に入りチームマシンガンに入った。自分の事を「おれっち」と言ったり語尾に「っす」を付けるなど、

話し方に癖がある。

こんな感じかな？

クロ

「バトルスタイルがないっすね？」

君はまだバトルしていないからね。バトルスタイル書いたらネタバレじゃん？

クロ

「……確かにそうっすね」

納得してくれて良かったよ♪

次はミズキ

ミズキ

「私？」

ミズキ

種族 チコリータ

性別 メス

年齢 16

ウッドタウンにあるドダイトスのギルドの弟子であり、チームシャインのリーダー。かなりのツンデレ。いつも素直になれず、周りから面倒扱いされることが。バトルスタイルは遠距離から攻撃し、隙ができるで大技を叩き込んで勝負を決める。

こんな感じ？

ミズキ

「……なんか腹立つ所がある気がするわね……」

きつ木の精さ（滝汗）

クロ

「……焦り過ぎて字を間違えてるっす」

ミズキ

「作者さん……覚悟はできた？」

……逃げろ！（ノ＞＜）ノ

ミズキ

「まちなさーい！」

クロ

「作者さん……大丈夫っすかね？とりあえず今回はここまでっす！ちなみに次回は……えーと作者さんによると、チームシャインの残りのメンバー紹介らしいっす！では皆さんバイバイっすー！」

裏話十お知らせ

どうも皆さん、ユウキです。今回は誓いの裏話でもしようと思います。

ユウキ

「またくだらないことを……」

リサ

「それに前回の予告と違うよ？」

……（泣）

ジン

「始めからそれでどうするんですか？」

……だね

えっと、今回はキャラ制作の裏話です

リサ

「この前やらなかったっけ？」

大雑把にはね。今回は更に細かいことをやるよ

えっと、まずはユウキだね

ユウキ

「俺はそんなに変わってないんだろ？」

うん。でも少し違うよ。最初はもっと口数が少ないキャラだったんだけど、それだとリサとのコミュニケーションが書きにくいからね、少し口数を多くしたんだよ

チサ

「今でも少ないよー（笑）」

ジン

「言えてますね（笑）」

ユウキ

「……………」

ユウキから黒いオーラが！つつ次はリサ！

リサ

「うっうん」

チサ

「話しそらしたー（笑）」

やかましい！（怒）

リサは初期設定からまるで変わっていないキャラの一人ですね

ジン

「前にも言っていましたね」

うん。正直一番始めに思い付いたキャラで、変えようもないからね

リサ

「そういえば私達の名前って人間みたいな名前だね？」

うっ……はい、ユウキは皆さんお分かりでしょうが、今ここに来て
いる奴らの名前は、みんな知り合いから貰いました。

チサ

「えー!？」

ジン

「本当ですか？」

うん。前にも書いたけど、名前を考える能力は皆無に等しいんだよ

(泣)

ユウキ

「なら何故小説を書きはじめたんだ？」

気にしない気にしない♪

次はジン

ジンは前に書いた通り、やんちゃな奴という設定でした。更に女好き
という性格も……

リサ

「完全に真逆じゃない」

ユウキ

「アニメのタケシみたいだな」

その通りさ♪気に入った女の子がいればすぐに声をかける……（笑）

ジン

「いい加減にしてください！気合い玉！（怒）」

ちよっ！！？ブルアアアアア！！！！

ユウキ

「騒がしい奴らだ……」

リサ

「作者さんが倒れたら進めないよ……あつ作者さんが残したメモが……これなら大丈夫だね！」

ユウキ

「なんだって？」

リサ

「みんなの紹介が書いてあるみたい。えっと、チサは私みたいに初期設定から変わっていないキャラみたいだよ」

ジン

「前にも書いてありましたね」

ユウキ

「だな……」

リサ

「でも性格は同じみたいだけど、唯一違う所があるみたいけど……
…言っているのかな？」

ジン

「いいんじゃないですか？」

リサ

「わかったよ。えっとジンとチサは今よりもっと親密な関係だった
……って書いてあるよ」

チサ

「そうなんだー♪私は別に良かったのにー♪（笑）」

ジン

「ちよっ!?!」

ユウキ

（このテンションにはついていけない……）

リサ

「ほかには書いてないよ……ここまでみたいだね」

ユウキ

「次のSPの更新はいつになるんだ？」

人気投票の詳細かな？

チサ

「復活してるー（笑）」

なぜ（笑）なんだ!？

えーとりあえず今回の裏話はここまでです。あとお知らせがあります。誓いのメンバーや僕への質問を大募集したいと思います。このSPの感想か、僕へメッセージを送っていただければ誓いのメンバーと僕が全力でお答えします

ユウキ

「他の人もやっていたな」

……確かに

えっととりあえず今回はここまでです

ジン

「こんなくだらないものを読んでくれてありがとうございます!」

……酷い（ノー・。）

リサ

「バイバイ!」

チサ

「またねー!」

勝手にしめるな!

ユウキ

（最初から最後までグダグダだな……）

裏話＋お知らせ（後書き）

という訳で質問大募集です！

リサ

「みんなどんどん質問してね！」

SE 第一話 出会い（前書き）

ユウキ

「今回はあれか？」

うん！なんと今回から数回にかけて露麒麟さんの『ライトの旅』地球に乗って』とのコラボです！！

ジン

「こんな小説とコラボしてくれてありがとうございます！」

まったくです！露麒麟さんありがとうございます！

ではSE第一話をどうぞ！

SE 第一話 出会い

「さて……今日はどんな依頼にするか……」

ユウキとリサは、ギルドでいつものように依頼を選んでいた。

「うーん……」

「おーいお前達、ちょっと来てくれ」

ユウキ達が依頼を選んでいると、ペラップがユウキ達に声をかけてきた。

「何か用か？」

「親方様がお呼びだ。部屋に来てくれ」

「うん。ユウキ、行こう」

ユウキ達はプクリンの部屋に向かった。

ユウキ達がプクリンの部屋に入ると、そこにはプクリンの他に、二匹のポケモンがいた。一匹はユウキに姿が似ていたが、少し色が明

るい黄色だった。もう一匹は体が緑色をしていて、背中に大きな種があった。

「なにか用か？」

「うん♪君達に頼みたい事があるんだよ♪ここにいる二人の手伝いをしてもらいたいんだ♪」

プクリンは二匹を指差しながら言った。

「よう！初めましてだな！ピチューのライトだ！」

「僕はフシギダネのグリーンだよ。よろしくね！」

「よろしく……で、何を手伝えば良いんだ？」

「うん♪どうやらライト達は時空の穴に落ちてしまったみたいなんだ」

「時空の……穴？」

リサは少し首を傾げた。時空の穴なんて聞いたことがないからだ。

「うん。それに落ちると違う世界に迷い込んでしまうらしいんだ」

「違う世界……？まさかライト達はこの世界のポケモンじゃないという事か？」

「まあそういう事になるな！」

ユウキの質問にライトが答えた。

「そんなことがあるなんて……」

「まあ信じられないのも無理はないよ。僕達も信じられないんだから」

「で、プクリン、俺達に手伝って欲しいことは何なんだ？」

プクリンはユウキ達に詳細を話し始めた。

「君達にはここから北東にあるミステリージャングルに行ってもらいたいんだ」

「ミステリージャングル？どこなの？」

「不思議な地図を出して♪」

ユウキは不思議な地図を出した。ライトとグリーンはその地図を不思議そうに見ていた。

「面白れえ地図だな……所々雲がかかってるぜ」

「本当だね」

プクリンは地図を使いながら説明を始めた。

「えっとここがトレジャータウン。ミステリージャングルはこっちの方向だよ。まだ未開の地で雲がかかってるんだ。未開というだけあってあまり情報がないんだ。だけど調べてみたらここには時空の

穴があるって情報があつたんだ!」

「つまり俺達はミステリージャングルで時空の穴を見つけてライト達をもとの世界に帰るのを手伝えばいいんだな?」

「そういうこと♪お願いできるかな?」

ユウキ達の答えは既に決まっていた。

「うん! 私達に任せてよ!」

「良かった♪じゃあお願いね♪」

「嗚呼」

ユウキ達はライトとグリーンと一緒に部屋を出た。

「悪いな巻き込んで。じゃあよろしくな!」

「よろしくね!」

「嗚呼。とりあえずトレジャータウンに準備しに行くか」

「トレジャータウン?」

ユウキの言葉にグリーンは首を傾げた。

「この近くにある町の事よ。そこで私達探検隊は準備してるんだよ!」

「んじゃ早く行こうぜ！」

ライトの言葉に皆頷き、トレジャータウンに向けて歩きだした。

「ありがとうございました〜♪」

ユウキはカクレオンのお店で準備をしていた。リサはトレジャータウンをライトとグリーンに案内していた。

「さて……合流するか」

ユウキは合流地点の十字路に向かって歩きだした。

ユウキが十字路に着くと、既にライト達がいた。

「準備は終わったのか？」

「嗚呼。結構長旅になるかもな」

「じゃあミステリージャングルに向けてしゅっぱーつ！」

グリーンがそう言うのと、ライトとグリーンが先行して歩きだした。

「賑やかになりそうだね」

「……うるさいだけだ」

「素直じゃないなあ」

ユウキ達もライトの後を追っていった。

SE 第一話 出会い（後書き）

いかがでしたか？今回は短いですが次回からは長くなると思います

リサ

「はっきりしようよ」

正直他の人のキャラを書くのが難しい……このコラボの更新は少し遅れ気味になりそうです……露麒麟さんすいません……（泣）

リサ

「しっかりしてよね」

S E 第二話 思わぬハプニング（前書き）

コラボの第二話完成！

ユウキ

「時間かかったな」

他の作品のキャラを動かすのは大変だよ……では第二話をどうぞ！

SE 第二話 思わぬハプニング

ユウキ達はミステリージャングルに向かうために、東の森と呼ばれる森に来ていた。

「広い森だね」

「まったくだな！しっかり目的地に着くのか？」

グリーンの言葉にライトが反応した。確かにあまりにも広い森なので迷ってしまっても不思議ではない。

「ユウキなら多分大丈夫だよ」

「多分って……心配するな。方位磁石を持ってきた。これで北東に向かえば良い」

「なら大丈夫だな！」

ユウキ達は方位磁石で方向を確かめながら、東の森を進んでいった。

ユウキ達は東の森に入って数十分後、森の中の湖の湖畔でユウキと

ライトがバトルをしていた。何故こうなったかというところ、それは数分前にさかのぼる。

「わあー！綺麗な湖だー！」

リサが湖に着いた刹那、湖に向けて走り出した。

「僕も行くよ！」

グリーンもリサに続いて駆け出した。

「俺達も行こうぜ！」

「嗚呼……」

ユウキとライトも湖に向かって歩きだした。

ユウキとライトが湖に着くと、リサとグリーンは湖で遊んでいた。ユウキはリサの事を少し眺めていた。ライトはユウキが何か考え事でもしているのかと、少し首を傾げた。

「どうした？何か考え事か？」

「いや……なんでもない」

「悩みがあるときはバトルだバトルだ！」

「……まあ構わないが」

「よっしゃあ！」

という訳でユウキとライトはバトルをしている。リサとグリーンは観戦していた。

「いくぞ！ 十万ボルト！」

「アイアンテール！」

ユウキの十万ボルトは、ライトのアイアンテールに弾かれてしまった。

「ちっ！ 電光石火からアイアンテール！」

「なら気合いパンチ！」

ユウキのアイアンテールと、ライトの気合いパンチがぶつかり合い、小規模な爆発が起こった。

「くっ……強い……」

「なかなかやるな！ だが勝つのは俺だぜ！ 蒼雷球【デスペラードサ
ンダー】！」

ライトは雷で鉄球を作り出した。

「なんだあれは……あれを喰らったらかなりヤバいな……仕方ない、反動があるが……雷鳴剣!!」

ユウキは雷を雷鳴剣に変えた。一気に勝負をかけに行くようだ。

「いくぞ! 鏡面刹!」

「勝つのは俺だ!」

ユウキの雷鳴剣と、ライトのデスペラードサンダーがぶつかり合い、今までで一番大きい爆発が起こった。

「ユウキ!」

「どっちが勝ったのかな?」

煙りが晴れると、そこにはユウキとライト、両方共立っていた。しかし二匹ともボロボロだった。

「ハア……ハア……」

「くっ……お前強いな!」

ライトはまだ喋れるくらいの余裕はあるようだ。だがユウキは雷鳴剣の反動で上手く雷を制御できず、デスペラードサンダーを少しまともに受けてしまい、既に限界に近い状態だった。

「くそっ……マズいな……」

「次で決めるぜ！デスペラー……」

ライトが決めようとしたが、刹那、森からスピアーの群れが襲い掛かってきた。

「うわっ！いきなりなんだよ！」

「なんだじゃねえ！貴様達がうるさくするからだ！覚悟しろ！」

スピアーはグリーンにダブルニードルで攻撃してきたが、グリーンにはあまり効いていなかったようだ。

「葉っぱカッター！」

グリーンは葉っぱカッターでスピアーを一気に三匹倒した。

「やった！リサさんも一緒に……リサさん？」

グリーンがリサの方を見ると、リサは震えていた。その顔は真っ青だった。

「だっ大丈夫！？」

「……ユウキ……怖いよ……」

「仕方ない！僕一人でも！」

グリーンは一匹で戦う事にした。

一方ユウキとライトもスピアーの群れに襲われていた。ユウキは急いで体力の回復につとめた。

「ライト！一人でこいつらの相手出来るか！？」

「出来なくはないが、どうしたんだ！？」

「リサはスピアーが苦手なんだ！早く行かないと……」

ライトはフツと軽く笑った。それはユウキがリサに対する大切さがわかったからだ。

「おう！任せな！」

「すまない！」

ユウキは持っていたオボンの実を食べて体力を回復し、リサとグリーンのもとに向かった。

「さて！いっちょやりますか！」

ライトはスピアーの群れに向かって走り出した。

「フッ！ 貴様みたいなチビが俺達には勝てないぜ！ ヘドロ爆弾！」

「当たるか！」

ライトはヘドロ爆弾を簡単にかわした。

「今度はこっちからいくぜ！ 蒼雷球【デスペラードサンダー】！」

「グアアアア！」

ライトは一撃でライトに攻撃してきていたスパーク球を一撃で倒してしまった。

「よし！ 終わり！ 早く向こうに行かないとな！」

ライトは向こうで戦っているユウキ達のもとに向かって走り出した。

「十万ボルト！」

「葉っぱカッター！」

ユウキとグリーンは目の前にいるスピアーの群れと戦っていた。その数は十五匹いた。

「いい加減くたばりな！破壊光線！」

「守る！」

スピアーの破壊光線は、ユウキの守るで防がれた。

「この数はキツイな……」

「まったくだね」

「弱音なんてお前達らしくないぜ！蒼雷球【デスペラードサンダー】！」

ユウキ達がそう言った刹那、ライトがスピアーにデスペラードサンダーでスピアーを三体倒した。

「よう！俺も加勢するぜ！」

「これならなんとかなるな。奴らを分散するぞ！」

「わかったよ！こっちに来い！」

「任せな！来なくそ虫野郎！」

ライトとグリーンがスピアーを挑発し、上手く分散することができた。

「良し……リサ、俺の後ろから離れるなよ」

「うん……」

ユウキはスピアーに向かって走り出した。

一方グリーンはスピアー三匹と対峙していた。

「お前達の相手は僕だ！」

「貴様ごときに負けるか！ダブルニードル！」

スピアー達はグリーンにダブルニードルで攻撃したが、グリーンはかわすそぶりを見せなかった。

「なんだ！？あきらめたか！」

「そんな訳無いよ！ソーラービーム！」

「グアアアア！！」

グリーンはソーラービーム一発でスピアー達を倒してしまった。

「終わった！みんなは大丈夫かな？」

グリーンはユウキ達のもとに向かった。

「俺の相手の数は多いな……」

ライトの前にいるスピアーは五匹いた。

「貴様もここで終わりだ！銀色の風！」

「ぐっ！アイアンテール！」

「グハアア！！」

ライトはアイアンテールでスピアーを吹っ飛ばし、他のスピアーにぶつけた。ぶつかり合ったスピアーは倒れた。

「あと三匹だな！雷！」

ライトは雷で残りのスピアー達を一撃で倒してしまった。

「終わりっ！早く合流しないとな！」

ライトもユウキ達と合流するためにユウキ達のもとに向かった。

その頃ユウキは、スピア―四匹に少し手間取っていた。

「ハハハッ！そいつを守りながらは大変だな！」

「ちっ……黙れ」

「そんな役に立たない奴なんかほっとけば良いものを！」

「……貴様……その言葉取り消せ……」

ユウキの言葉には怒りがこもっていた。

「ああ？」

「その言葉を取り消せ！！雷鳴剣！」

ユウキは雷鳴剣を作り出した。その勢いは、今にも攻撃せんという勢いだった。

「なんだあ？仲間の悪口を言われて怒ってるのか？くだらねえ！」

「うせろ！召雷斬！」

「なっ！グハァァー！」

ユウキは召雷斬でスピアを一撃で倒した。

「なんだ今の威力は！？」

「貴様達に猶予は与えない！羅刹陣！」

ユウキはスピアー達が驚いている間に接近し、羅刹陣でスピアー達を薙ぎ払った。スピアー達はその場に崩れ落ちた。

「フン……リサ、大丈夫か？」

「うん……」

ユウキは、リサは少し元気がないように見えた。

「……どうした？」

「……ごめんね、いつも足引っ張ってて……」

「あいつらの言うことなんか気にする事はない。リサは弱くないさ。それに無理して自分を追い込む事はない」

「……うん」

ユウキがバトルを終えた刹那、グリーンとライトが合流した。

「よう！無事だったか！」

「嗚呼……とりあえず少し離れて休憩したら出発するぞ」

ユウキ達はさすがにここで休むのは危険と考え、湖から離れた場所で休憩した後、ミステリージャングルを目指して出発した。

SE 第二話 思わぬハプニング（後書き）

リサ

「怖かったよう……（泣）」

大丈夫？（汗）

ユウキ

「次回はどうなるんだ？」

まだ未定だよ。あんまり長い間キャラをお借りになるわけにはいかないし……

ユウキ

「もう終わるのか？」

いや、後二、三話は続くよ（笑）

ユウキ

「あんまりないな」

ごめんなさい（泣）

人気投票

どうも！ユウキです！本来はソーマ編が終わってからの予定でしたが……我慢出来ず、行うことにしました！夢にまで見た（大袈裟）人気投票！！

ユウキ

「執筆始めたばかりの作者がなに言ってるんだ」

……（ノ―＜。）。。

リサ

「説明しないの？」

……だね

えっと、まず投票数は、お一人三票までです。この三票の使い方は自由です。例えば……

ユウキに三票

なども可能ですし

リサに二票

ジンに一票

も可能ですし

チサに一票

クロに一票

ミズキに一票

なども可能です。

ちなみに三票全て使わなくてもいいです。つまり使える票は最大三票までということで、使い方は自由です。あと、投票理由を書いてくれると、とてもありがたいです！

期限は長めにします。4月17日から、5月3日までとします。

投票方法は、僕にメッセージを送ってください。僕のマイページからメッセージを送れます。感想欄でも構いませんが、なるべくメッセージでお願いします。

そして、現在コラボしている露麒麟さんのキャラには投票対象にはなっていません。露麒麟さん、すいません。

はじめましての方も、いつも感想くださる方も、奮ってご参加ください！

こんな感じかな？

ユウキ

「まあいいんじゃないか」

チサ

「みんな私に投票してねー♪」

クロ

「おれっちにしてほしいっす！」

リーフ

「僕も」

……アピールタイム終了ね

では皆さん、よろしくお願いします！

人気投票（後書き）

皆さんよろしくお願いします！

SE 第三話 到着（前書き）

コラボの第三話完成！

ユウキ

「やっと着くのか？」

それは本文で

では第三話をどうぞ！

SE 第三話 到着

ユウキ達は、プクリンのギルドを出発してから数日後、ミステリージャングルにたどり着いた。

「やっとなつたね」

「長かったな！」

リサの言葉に、ライトが反応した。

「さて……時空の穴とやらを探すとするか……」

ユウキ達は時空の穴を探すためにミステリージャングルに入っていた。

ユウキ達がミステリージャングルに入ってから数分後、三匹のポケモンに襲われていた。

「ちっ！面倒だな！」

「一気にいくぞ。十万ボルト！」

「うん！火炎放射！」

「葉っぱカッター！」

「アイアンテール！」

ユウキ達はそれぞれの得意技で、一気に仕留めた。

「たいして強くねえな！」

「……さすがに四人だと楽だな……」

「早く先に進もうよ！」

グリーンの提案により、ユウキ達は先に進むことにした。

「結構奥まで来たね……」

「そろそろ何かあるかもな！」

ライトがそう言った刹那、突然沢山のポケモンが現れた。

「なんだこいつら!?!」

「かなりの数だな……」

そう、ユウキ達はモンスターハウスに入ってしまったのだ。モンスターハウスは、入ると沢山のポケモンに襲われてしまう。探検隊では一番当たりたくない場所なのだ。

「どうするの?」

「固まっていたら格好の的だ。敵の戦力を分散して一気に仕留める」

「任せな!」

ユウキ達は、敵の戦力を分散させるために、それぞれグリーン、ライトとユウキ、リサに分かれた。

「さて……君達の相手は僕だよ!」

グリーンの前には、ハヤシガメが三体に、ジュカインが一匹いた。

「いくよ! 葉っぱカッター!」

グリーンは葉っぱカッターで、ハヤシガメ達に攻撃したが、ジュカインのリーフブレードで切り裂かれてしまった。

「一筋縄じゃないってことだね……」

グリーンがそう言った刹那、ハヤシガメ達がエナジーボールで攻撃

してきた。

「無駄だよ！弦の鞭！」

グリーンは弦の鞭で、エナジーボールを打ち返した。ハヤシガメ達は避けられず、直撃した。

「隙あり！葉っぱカッター！」

グリーンは怯んでいるハヤシガメ達に葉っぱカッターで攻撃した。ハヤシガメ達はかなりのダメージを受けたようだった。ハヤシガメ達は恐れをなしたか、逃げ出してしまった。

「逃げちゃったか……まあいいや。あとは一匹だね。弦の鞭！」

グリーンは弦の鞭でジュカインに攻撃したが、ジュカインは見切りでかわしてしまった。ジュカインはすぐに攻撃に移ってきた。

「うわっ！」

グリーンはギリギリの所でかわした。ジュカインは更にリーフストームで攻撃してきた。

「これは避けられないね……」

グリーンは避けられないと踏んで、ある行動を取りはじめた。ジュカインのリーフストームは、グリーンに直撃した。

「うわぁ！」

グリーンは、リーフストームをなんとか堪えることが出来た。

「今度はこっちだよ！ソーラービーム！！」

グリーンはソーラービームで、リーフストームを打って隙だらけのジユカインに攻撃した。ジユカインは耐えられず、その場に倒れた。

「終わった！みんなは大丈夫かな？」

グリーンは周りを見ると、まだみんな戦っていた。

「わわっ！僕も加勢しなくちゃ！」

グリーンはまだ戦っているユウキ達のもとへと走り出した。

一方リサは、ポポッコ、キレイハナ、ベイリーフと戦っていた。

「相性が良いからって油断出来ないね……」

リサがそう言った刹那、キレイハナがマジカルリーフで攻撃してきた。

「きゃっ！危ないなあ！」

リサはギリギリかわしたが、マジカルリーフは必ず命中する技なので、リサを追跡してきた。

「追い掛けてきたよ！？なら火炎放射！」

リサは火炎放射で、マジカルリーフを打ち消した。

「今度はこっちからいくよ！電光石火！」

リサは電光石火でポポッコの後ろに周りこんだ。

「隙ありよ！火炎……」

リサが火炎放射をポポッコに放とうとした刹那、ベイリーフが弦の鞭でリサを捕まえ、放り投げた。

「えっ？うそ！？」

リサは予想していない行動に、少し焦ってしまった。だが、リサはなんとか上手く着地出来た。

（向こうのコンビネーションは凄いね……どうやって崩せば良いのかな……ユウキならどうするかな？ううん！ユウキばかり頼っちゃダメよね！私だけでも頑張れるようにならないとユウキに笑われちゃうよ！）

リサが一匹で考えていると、ポポッコがタネマシンガンで攻撃してきた。リサはギリギリかわしたが、少し防戦状態になっていた。

「どうしよう……うん！これならいけるかも！」

リサはある一つの作戦を思い付いたようだ。リサはそれを実行に移した。

「まずは……電光石火！」

リサは電光石火でベイリーフの後ろに周りこんだ。だが、先程と同じように、クレイハナがエナジーボールで攻撃してきた。それがリサの狙いだった。

「今だ！穴を掘る！」

リサは穴を掘るで、地中に潜り、エナジーボールをかわした。クレイハナ達は、リサの思わぬ行動に動揺し、アタフタしていた。その間にリサはベイリーフの真下辺りにいた。

「今だ！火炎放射！」

リサは地中から出てきてベイリーフに火炎放射を放った。ポポッコもクレイハナも反応出来ず、ベイリーフの援護は出来なかった。ベイリーフはその場に倒れた。

「あと二匹！電光石火！」

リサは電光石火で、ポポッコに接近し、火炎放射でポポッコに攻撃した。ポポッコも相性が良いせいにか、一撃で倒れた。

「あと一匹ね」

リサはキレイハナの方を見ると、キレイハナの様子が変わった。どこことなく怒っているようにも見えた。そしてリサの予想は的中した。キレイハナの周りに花びらが舞っていたのだ。

「あれ……なにな……?」

リサが考えていると、その花びらは、リサに向かってきた。キレイハナは花びらの舞を使っていたのだ。

「きゃあ! 火炎放射!」

リサはとっさに火炎放射で迎撃したが、全ては打ち消せなかった。それ程の威力だった。

「うそ!? 電光石火!」

リサはギリギリ花びらを交わすことが出来た。

「危なかったあ……ん?」

リサは、キレイハナの様子が変なことに気がついた。花びらの舞は、強力な技だが、しばらくすると、使用したポケモンが混乱するデメリットがある。キレイハナはそれのせいで、混乱していたのだ。

「もしかして混乱してるのかな……ならチャンスだね!」

リサは、キレイハナが混乱している間に、力をためはじめた。キレイハナが混乱から回復したところには、チャージは終わっていた。

「これで終わりよ！火炎放射！」

リサは今回のバトルで一番強力な火炎放射を放った。キレイハナはエナジーボールで迎え撃ったが、打ち消されてしまい、火炎放射はそのままキレイハナに直撃した。キレイハナはその場に崩れ落ちた。

「ふう……」

リサが安堵していると、グリーンがやってきた。

「大丈夫!？」

「うん。ユウキとライト君は？」

「まだ戦っているみたいだよ！」

「じゃあ私達も行こう！」

リサとグリーンはまだ戦っているユウキとライトのもとに向かった。

「さて……やるか！」

「……おいライト、何故ついて来た？」

「あ？ユウキ一人だと無茶するんじゃないかと思ってな！」

ライトは軽く笑いながら言った。ユウキはそれを見て軽いため息をした。

「……好きにしろ……来るぞ」

ユウキとライトの前には、フシギバナが一匹いた。

「……おぬし達は何の用があつてここに来た？」

フシギバナはユウキとライトに問い掛けた。二匹は急に話しかけられて、少し驚いた。

「……俺達はここに時空の穴があると聞いてやってきた」

「ほう、時空の穴か。それで何をするつもりだ？」

「俺の仲間をもとの世界に帰すためだ」

ユウキはそう断言した。フシギバナはそれを見てどことなく納得したかのように見えた。

「なるほど……ならあの方とお会いになる必要があるな」

「あの方？誰だそれは！」

ライトはフシギバナに問い掛けた。

「ワシに勝てたらあの方に合わせよう……ではいくぞ……ハードプラント!!」

フシギバナは、地面から大量の茨いばらを発生させ、ユウキとライトに攻撃してきた。

「いきなり大技かよ!」

「ライト、こっちこい! 守る!」

ユウキはライトを含めて、守るでハードプラントを防いだ。

「ほう……やるのう」

「今度はこっちからいくぜ! アイアンテール!」

ライトはアイアンテールで攻撃した。それはフシギバナの頭部に直撃したが、あまり効いていないようだった。

「ちっ!」

「どうしたんじゃ? 捨て身タックル!」

「ぐはっ!」

ライトは捨て身タックルを受けて吹っ飛ばされ、木に激突した。

「ライト!」

「くっ！大丈夫だ！」

「よし……影分身！」

ユウキは自分の分身を作り、フシギバナを攪乱しようとした。

「無駄じゃ！地震！」

フシギバナは、地震で分身達を一撃で全て消してしまった。ユウキはジャンプし、地震を上手く避けていた。

「地震か……これだと穴を掘るは使えないな……」

「俺を忘れるなよ！蒼雷球【デスペラードサンダー】！！」

ライトは雷の鉄球を作り、フシギバナに攻撃した。

「ぬうつ！なかなかの威力だな」

「まだまだ！うらあ！」

ライトはもう一回攻撃したが、それを許すほどフシギバナは甘くなかった。

「無駄じゃ！エナジーボール！」

フシギバナはエナジーボールを鉄球にぶつけ、軌道をずらした。それにより、鉄球はフシギバナにぶつかることはなかった。

「くそっ！」

「ライト、下がれ！」

ユウキは、ライトがフシギバナと戦っている間に充電をし、ボルテックススタイルになっていたのだ。

「いくぞ！電光石火！」

ユウキは電光石火でフシギバナに接近した。

「なに！？」

「喰らえ！ライジング・ブレイカー！！」

ユウキはライジング・ブレイカーでフシギバナに攻撃した。それはフシギバナに直撃した。フシギバナはかなりのダメージを受けたようだった。

「ぐっ……」

「決めるぜ！雷！」

ライトは雷でフシギバナに止めを刺しに出た。雷はフシギバナに直撃した。だがまだフシギバナは立っていた。

「マジかよ！？」

「……ワシの降参だ」

「……なに？」

「正直立っているのがやっとなんじゃよ……おぬし達の勝ちだ」
フシギバナは負けを認めた。

「そうか……」

ユウキ達が戦いを終えると、リサとグリーンがやって来た。

「ユウキ！ ライト君！ 大丈夫？」

「大丈夫だ！」

「ではあの方のもとに連れていこう」

「その必要はないぜ！」

突然どこからか声が聞こえてきた。その刹那、ユウキ達の目の前に一匹のポケモンが現れた。

SE 第三話 到着（後書き）

リサ

「最後のあれは誰なの？」

「

それネタバレでしょ？でも多分読んでる人は分かると思うよ

リサ

「気になる〜！」

人気投票の結果発表！（前書き）

ユウキ

「ついに発表か」

リサ

「緊張するよ……」

チサ

「私入ったかなー？」

ジン

「早くいきましょー！」

人気投票の結果発表！

どうも皆さん！ユウキです。今回は人気投票の結果発表です！

リサ

「どうなったのかな？」

チサ

「ドキドキするねー♪」

では第六位からいきましよう！一票ずつ、三人に入りました！まずは……こいつだ！

テイル

「私ですか？」

ジン

「お姉ちゃんが入った！」

はい、ジンの姉、ルカリオのテイルが入りました。理由は、ルカリオが好きだからというご意見を貰いました。

ティル

「ありがとうございます」

良かったね

では二人目だ！

リン

「わーい！リンが入ったー♪」

クロの妹、イーブイのリンが入りました。理由は、可愛い、妹キャラが良いという意見をもらいました！

リン

「すごい嬉しいよー♪」

実は、ティルやリンを書くのは苦労しました。

ティル

「何故ですか？」

僕って兄弟いないからさ、姉とか妹ってわかんないんだ。

リン

「そうなんだ！」

では氣を取り直して三人目にいきましよう！三人目は……こいつだ！

ソウル

「自分か」

バクフーンのソウルに一票入りました！理由は、カッコイイ、バクフーンだからという意見を貰いました！

ソウル

「投票、感謝する」

では第五位にいきたいと思います！二票入りました！そのキャラは……こいつだ！

リーフ

「わーい！」

のんびりやのナエトル、リーフが入りました！理由は、のんびりした性格が、種族に合っていて良い、バトルと食事の時にのんびりがなくなるのが良いなどのご意見を貰いました！

リーフ

「宣伝したかいがあったー（泣）」

良かったね

では第四位にいきます！二人いました！票は三票入りました！そのキャラは……こいつだ！

ミズキ

「私ね！」

我らがツンデレ嬢、ミズキが四位に入りました（笑）理由は、やはりほとんどの人からツンデレが良いというご意見を貰いました！

ミズキ

「素直に喜んでいいのかしら？」

素直になれよ……無理か（笑）

ミズキ

「なんですってー！（怒）」

怖い怖い（笑）

もう一人は……こいつだ！

チサ

「やったー♪」

ミミロルのチサに二票入りました！理由は、可愛い、元気があって

良い、一言なにかしゃべるだけで周りを明るくするのが良いなどのご意見を貰いました！

チサ

「すごい嬉しいー！」

チサは、ミミロルが明るいイメージがあったので、こうしましたが、皆さんに好評で良かったです！

では第三位にいきます！五票入りました。誰がランクインしたか……！

ジン

「僕ですか！？」

チサ

「ジンやったねー♪」

真っ直ぐな性格のリオル、ジンがランクインしました！理由は、常に真っ直ぐで良い、知적および戦略的な所が良い、リオルが好きだからなどの理由を貰いました！

ジン

「こんなに嬉しいとは思いませんでした！」

個人的に好きなキャラの一人なので、ランクインしてホッとしています（笑）

では第二位にいきましょう！六票入りました！それは……こいつだ！

リサ

「私！？嬉しい！」

ユウキ

「リサが入ったか」

ユウキのパートナーのアチャモ、リサが第二位に入りました！理由は、可愛い、癖のないキャラが良い、ユウキを気遣う優しさが魅力的、常にひたむきな所が良い、ユウキを支えている所が良い、応援したくなるなどのご意見を貰いました！

リサ

「皆さんありがとうございます！」

では第一位にいきます！十一票入りました！それは……こいつだ！！

リサ

「予想できるよね」

ジン

「言えますね」

ユウキ

「俺か！」

リサ

「やったね！」

ユウキ

「嗚呼」

二位に大差をつけ、主人公のピカチュウ、ユウキがトップでした！理由は、主人公だから、カッコイイ、リサを大切にしている所が良い、オリジナル技や、雷鳴剣がカッコイイ、さっぱりした口調にピカチュウというのが独特で良い、リサを守ろうと必死なのにそれが恋だと明確に気づいていない所が可愛いなどのご意見を貰いま

した！

ユウキ

「いろいろな意見があるな」

やっぱり主人公は人気あるのかな？

ジン

「それだけではない気がしますよ？」

リサ

「凄いかっこいいからね（小声）」

今回の人気投票の結果はこんな風になりました！最後に、投票してくれた方々、本当にありがとうございます！

ではこの辺で！

クロ

「おれっち入ってなかったす……（泣）」

レイド

「私もですわ……」

もし次回あったら頑張りなよ（汗）

人気投票の結果発表！（後書き）

皆さん、ご協力ありがとうございました！

SE 最終話 バイバイ（前書き）

コラボの最終話完成！

ユウキ

「あいつは何者だ？」

前回でたポケモンについては今回わかります

では最終話をどうぞ！

SE 最終話 バイバイ

「なかなかのバトルだったな！見てて楽しかったぜ！」

謎の声がそう言った刹那、ユウキ達の前に、一匹のポケモンが現れた。見た目はユウキ達と差ほど変わらぬ体格、そして長い尻尾とピンク色の体の特徴的だった。声のトーンと喋り方から、まだ幼い感じがした。

「あんたは？」

「オイラか？オイラはミュウ！一応この森の守り神さ！」

ライトの言葉に、そのポケモン、ミュウが答えた。

ミュウという名前を聞き、リサはかなり驚いたような表情になっていた。

「ミュウ！？あの幻のポケモンの！？」

「幻のポケモン？」

リサが驚くのも無理はない。幻のポケモンは、その名前の通り、個体数が非常に少ないポケモンなのだ。しかもミュウは、全てのポケモンの先祖と言われているポケモンなのだ。

「へえー！オイラのこと知ってんだ！お姉ちゃん物知りだなー！」

「あっありがとう」

突然ミュウに褒められて、リサは少し困惑してしまった。

「で？時空の穴を探しているんだって？」

ミュウは本題を切り出してきた。その表情は、さっきより少し真剣な顔になっていた。

「嗚呼。どこにあるんだ？」

「悪いけどそこはこの森の神聖な場所ですよ、気軽に連れていけないんだよね……」

「そんな……」

グリーンはかなり落ち込んでしまった。

「でも一つ条件があるぜ。これを出来たら連れて行って良いぜ」

「条件？なにをやれば俺達は帰れるんだ？」

「オイラとバトルだ！勝ったら案内してやるぜ♪」

ミュウは、子供もような、無邪気な顔になった。どうやらかなりのバトル馬鹿のようだ。

「俺達とか？四対一なんて無理なんじゃないか？」

ライトは、数の差から余裕で勝てると思っていた。

「おいおい、一応オイラは幻のポケモンだぜ？四人でも余裕だって。」

まあ手加減はするからよ」

「……舐められたものだ……」

ユウキは、既に戦闘モードになっていた。

「決まるだな♪早速やろうぜ♪」

「なら俺からいくぜ！アイアンテール！」

ライトは、自分の尻尾を鋼の如く硬質化し、ミュウに攻撃しようとした。

「無駄だぜ！アイアンテール！」

なんと、ミュウもライトと同じアイアンテールで攻撃した。

二匹の技がぶつかり合った。だが威力はミュウの方が高かったか、ライトは少し吹き飛ばされてしまった。

「くそっ！」

「まだまだいくぜ！波動弾！」

ミュウは、自分の波動のエネルギーを球体化させ、ライトに攻撃してきた。

「させるか。雷パンチ！」

ユウキは、右手に雷を溜め、それで波動弾に向けて殴りつけた。波動弾はユウキによって弾き返された。だが雷を纏っていたとはいえ、直に攻撃したからか、ユウキに少しダメージが残った。

「ちっ……」

「まだまだ！火炎放射！」

ミュウは、ユウキ達に灼熱の炎を放ってきた。

「私に任せて！火炎放射！」

「僕も！ソーラービーム！」

リサも、ミュウと同じように灼熱の炎を放ち、グリーンは背中の中から、極太のビームを放った。
三つの技はぶつかり合い、爆発が起こった。ユウキ達は爆風に飛ばされないように堪えていた。

「なかなかやるね♪吹雪！」

ミュウは、爆風に耐えるユウキ達に、凍てつく吹雪を放ってきた。

「まじかよ！？」

「任せろ！十万ボルト！」

ユウキは頬の電気袋から、得意の十万ボルトを放った。だが、ミュウの吹雪の威力は高く、打ち消されてしまった。

「私だって！火炎放射！」

リサの火炎放射がミュウの吹雪とぶつかり合い、吹雪によって発生した雪は水蒸気になり、ユウキ達の周りに霧が発生した。

「さて、どこからくるかな♪」

ミュウは、次にユウキ達がどうでるか楽しみだった。この戦いを楽しんでいた。一方ユウキ達は、どうやって攻めるか考えていた。

「どうする！？このままだとやられちゃうよ！」

グリーンは、ミュウの圧倒的な力の差に、焦りを隠せなかった。

（どうする……ミュウとの実力差は明白だ……生半可な攻撃は無意味……俺達の持つ最強の技でも勝てるかどうかかわからない……）

「ユウキ！どうしよう！」

リサの焦った声に、ユウキは無言で答えた。ユウキの答えは決まっていた。

「生半可の攻撃は無意味だ。なら真っ向勝負しかない」

「真っ向勝負！？本気かよ！？」

さすがのライトも驚いていた。いつものユウキなら確実性のある作戦を考えるのに、今回に限っては力勝負を提案したからだ。

「嗚呼。正直ろくな考えしか浮かばなかった。なら真っ向勝負の作戦しかないと考えた。これしかない」

「でもそれで勝てるのかな？」

グリーンは心配そうな表情を浮かべていた。

「やるしかなさそうだな！でもどうやるんだ？」

「俺達の最強技を生かして戦う。いいか……」

ユウキは、どうすれば上手くいくか説明し始めた。

「……確かにそれなら上手くいくかもしれないけど……ユウキ、腕大丈夫なの……？」

ユウキの説明を聞き、リサは心配そうな赴きだった。

「なんとかなるさ。とにかくいくぞ」

「任せな！蒼雷球【デスペラードサンダー】！！」

ライトは雷の鉄球を作りだし、水蒸気を煙幕みたいに利用し、ミウに気づかれないように接近した。

「うらあああ！！」

「おっと！サイコキネシス！」

ライトはミウの右側から接近し、ミウに攻撃しようとしたが、感づかれてしまい、ミウの持つ超能力で鉄球の起動をずらした。

「くそっ！まじかよ！」

「決めるとするか！波動……」

ミュウは波動弾で、隙だらけのライトに攻撃しようとしたが、どこからか極太の光線が飛んできた。

「うわっ！ 守る！」

「防がれちゃったか……」

ライトが攻撃されそうになった刹那、グリーンがソーラービームでミュウに攻撃した。
だがまたしてもミュウに感づかれ、守るによって発生した壁に阻まれてしまった。

「でも……計算通りだよね？」

「防がれたのは少し計算外だったが……まあいい」

そう、ここまでは、ユウキの作戦だった。ユウキは少し計算がずれが生じたが、既にリサがスタンバイしていたので、そのまま強行した。

「あれ？ あのお姉ちゃんがないな？」

ミュウは、リサがいないことに気づいたが、どこにいるかわからなかった。

「今だ！」

「うん！ ファイヤーレイン！」

リサは、ミュウの真上から、炎の雨の如く攻撃した。

「まじ！？うわっ！」

さすがのミュウも、ファイヤーレインによって発生した炎の数に、反撃出来なかった。

「止めだ……雷鳴剣、羅刹陣！」

ユウキは、両腕に雷を溜め、それを剣に形を変えた。それでミュウのもとに走り出し、切り付けた。

「うわああ！！！」

「ぐはっ！！！」

ユウキの攻撃は、ミュウに命中した。だがユウキは、雷鳴剣の反動に耐えられず、雷鳴剣を無意識に消してしまった。

ライトはミュウに出来た隙を見逃さなかった。

「一気にいくぜ！うらあ！」

ライトは、雷の鉄球で、雷鳴剣のダメージで動けないでいるミュウに攻撃した。鉄球はミュウの頭部に直撃した。

「終わったか！？！」

ライトは、ミュウが倒れたか確認した。だがミュウはまだ立っていた。

「冗談だろ!？」

ライトは確実に決まったと思っていたが、ミュウが耐えていたことに驚きを隠せなかった。

だが、ミュウの様子は少し変わっていた。なんとなく満足したような表情だった。

「いいねえ!合格だぜ!」

「……は？」

ミュウの思わぬ発言に、ユウキは素っ気ない態度をしてしまった。

「そういえば名前聞いてなかったな〜名前は？」

ユウキ達は、ミュウの態度の変わりように戸惑いながらも、とりあえず自分の名前を言った。

「そっか♪じゃあ時空の穴に案内するぜ!」

「ちよっ、ちよっと待って!まだバトルは……」

「合格だって言っただろ?オイラはユウキ兄ちゃん達が気に入ったんだよ♪」

なんと、ミュウはバトルが終わってないのに、ユウキ達を時空の穴に案内するといいい始めたのだ。とにかくユウキ達はその好意に甘えることにした。

歩きだして数分後、ユウキ達の前には、黒い渦のようなものがあつた。どうやらこれが時空の穴のようだ。

「この前友達に作ってもらって良かったな。まさか役に立つとはな
」

「友達？」

「まあなくで？お別れはすんだのか？」

そう、ここでライトとグリーンとはお別れなのだ。

「ここまでありがとな！感謝してるぜ！」

「本当にありがとう！」

ライト、グリーンの順に、ユウキとリサにお礼の言葉を言った。

「……嗚呼。じゃあな」

「グスン……元気だね……」

リサは少し涙ぐんでいた。ライトとグリーンは、挨拶をすませ、時空の穴に入ってしまった。

「じゃあな！」

「さようなら！」

その声を最後に、二匹の姿が見えなくなった。

「無事に帰れるといいね……」

「そうだな……さて、トレジャータウンに帰るか」

「ならオイラが送ってやろうか？」

「本当に？」

「まあな！テレポート！」

ユウキとリサが目を開けると、ギルドの入り口の前にいた。驚きの早さに、二匹は感心してしまった。

「じゃあオイラは帰るからな！ひまな時は遊びにこいよ！じゃあな
〜！」

ミウは手を振りながら、レポートでミステリージャングルに帰っていった。

「ライト君達……無事に着いたかな？」

「多分大丈夫だろう？」

「そうよね……私お腹すいちゃった。ご飯食べに行こっ？」

「だな」

二匹は、ライト達との日々と、空腹を引き連れてギルドに入っていた。

SE 最終話 バイバイ（後書き）

うーん……

リサ

「どうしたの？」

ミュウってテレポート出来たかな……まあいいや

ユウキ

「いいのかよ」

今回でコラボは終了です！正光さん、ありがとうございました！

ちなみに今回の話はユウキ達がソーマとの戦いが終わり、ギルドに帰ってきてからすぐの話です

ユウキ

「無理があるな」

そこしかタイミングがいいとこなくて……（；ω；）

質問に回答する会！（前書き）

ユウキ

「今回は前に募集した質問に答えるのか」

うん。ちなみにサブタイトルは気にしないでください

質問に回答する会！

どうも皆さん！ユウキです！今回は以前募集した質問に答えたいと思います

ユウキ

「どれだけ待たせたんだ」

チサ

「作者さんの計画性のなさがでたねー（笑）」

……………（泣）

では質問に答えていきましょう！

ユウキ

「話そらした……」

リサ

「じゃあ私が読むね。えっと、ソウルさんとかも周りから名前を取っているんですか？だって」

ミズキ

「確かにシャドーとかソーマはいるわけないわね」

確かに

えっと……はい、完全に周りからは取っていません（汗）
ポケモンの見た目や、かっこよさで決めたものもあります

クロ

「かつこよさ重視って多いっすね？」

気にしない気にしない♪

リーフなんか頭に葉っぱがあるからそうしたし、レイドなんかもとの名前から取っているからね〜

リーフ

「シクシク……」

レイド

「……………」

ちよっ！？なにマジカルリーフの体勢取ってるの！？

レイド

「マジカルリーフ！（怒）」

ブルアアアアアア！！！！

リサ

「……作者さんが倒れちゃったら質問に答えられないよ……」

レイド

「……そうですわね」

ユウキ

「どうすんだよ？」

チサ

「へっへー♪実は作者さんからメモを預かってるのだー♪」

ジン

「それなら大丈夫ですね！」

リサ

「じゃあ次の質問だね。えっと、作者さんはどんな時に小説のネタを思い付くんですか？だって」

チサ

「なにになー？僕が小説の内容を思い付くのは、ぼーっとしているときや、風呂に入ってる時もありますが、一番多いのは授業中です……」

作者以外

『……………』

うう……あれ？みんなどうしたの？

ユウキ

「作者、お前小説のネタは授業中に思い付くのか？」

うっうん。全くやる気のない授業によく浮かぶよ？

ミズキ

「うちの作者さんってこんなにダメ人間だったのね」

悪いか！？

作者以外

『悪い!!』

……………（；ω；）

ユウキ

「作者がいじけたな」

リサ

「……とりあえず次の質問だね。えっと、ユウキ達はどっやって強くなったんですか？だって」

ユウキ

「どっやって……？難しい質問だな……とにかくバトルしたり特訓したりして強くなった……これで良いか？」

チサ

「特訓かー♪懐かしー♪」

ジン

「最初はユウキさんがお願いしてきたんですよ」

チサ

「そうそう♪リサを守りたいってねー♪」

ユウキ

「……余計なことは言わなくていい……」

リサ

「……………」↑顔を赤らめてる

おっと？リサが顔を赤くしてるぞ？（笑）

リサ

「作者さん！」

ゴメンゴメン

リサ

「質問はこれだけみたいだよ」

うゝんまだ終わらせたくないな……

ユウキ

「だったら俺達の質問に答えたらどうだ？」

おっ良いね♪

リーフ

「じゃあ僕から〜作者さんは〜どこに住んでるの〜？」

個人情報やん……関東だよ

ジン

「じゃあ僕いきます。ユウキさんのオリジナル技はどうやって決めたんですか？」

ユウキのオリジナル技？あれは技の性質は自分で考えたけど、名前はあるゲームから取ったもの……

ミズキ

「でたわね。作者さんのネーミングセンスの無さ」

うっうるさい！（泣）

ミズキ

「じゃあ次は私ね」

ちゃんとした質問か？

ミズキ

「なんですってー！」

すみません……

ミズキ

「まったく……私達のチームやユウキ達のチームの組み合わせはなにか理由でもあるの？」

単刀直入に言おう。全て僕の好みさ

ユウキ

「……は？」

ライトニングはゲームで選べる中から好きなポケモンを選び、マシンガンは完全に僕の好みのポケモン、シャインは出身地が草ポケモンしかないから、草ポケモンで好きなポケモンを選んだのさ♪

クロ

「なにか理由があるのかと思っていたっすのに……」

リサ

「まさか好みとはね……」

ユウキ

「最後は俺だ。作者はなんでこの小説を書きはじめたんだ？」

このってより誓いも絆も僕が書きたい！って思ったから書いたのさ

ユウキ

「だからなんで書きたくなったんだ？」

前にこのサイトである先生の作品を読んだんだ。それを読んで僕も書いてみたいと思ってね。それがきっかけかな？

チサ

「ある先生ってー？」

いやいや、個人の名前を出すわけにはいかんでしようが

ユウキ

「まあ……そうだよな」

まだある？

ジン

「もうないですね」

じゃあとりあえずお知らせを。えっと、まだまだ質問は募集しています！質問がありましたらSPの感想欄、または僕にメッセージを

送ってくだされば、僕とキャラが全力で答えます！例えば電気ネズミとヒヨコはいつになったらくつつK……

ユウキ

「十万ボルト！！（怒）」

ブルアアアアアア！！！！

クロ

「……とにかく質問待ってるっすー！」

皆と駄弁ろう！ その2

どうも皆さん、ユウキです。今回はキャラ達と駄弁ろうの第二段です。

ミズキ

「テストは？」

ちょっと息抜きさ

クロ

「前の時も言ってた気がするっす……」

ミズキ

「で？　今回はなにをするの？」

前回の第一段はユウキ達の裏話したからさ、今回は君達の裏話をしようと思ってね

ミズキ

「でもメンバーが足りないわよ？」

もう来るはず……あっ来た

リーフ

「遅れた〜」

レイド

「リーフが寝ているからですわ」

これでメンバーは揃ったね！

クロ

「始めるっすー！」

ミズキ

「……やけにテンションが高いわね」

クロ

「ただ作者さんに合わせただけっす」

リーフ

「お腹すいたよ」

……空気を読みなさい

レイド

「なにかから話すんですの？」

じゃあ……まずはクロからいこうか

クロ

「おれっちっすー！」

クロは突然頭に浮かんだキャラなんだよ

リーフ

「そうなの？」

うん。現にクロは突然ジン達の仲間になってるでしょ？

ミズキ

「確かに……なんか酷いわね」

シクシク……（泣）

クロ

「おれっちの話はどうなったっすか？」

そうだね。クロは最初仲間思いで、熱血漢な設定だったんだけど……

レイド

「本編で熱血漢って所がわかりませんわね」

そうなんだよ。ちゃんと描写しないとね

で、次はミズキ

ミズキ

「私はどうなの？」

君は少し考えた。君が出たぐらいの時に、新キャラはいままでにいないキャラにしたかったんだ。その時、そういえばツンデレっていないな……って思って君が生まれたんだ。

クロ

「種族をチコリータにした理由はなんなんすか？」

ただ単に好きだから

ミズキ

「なんの捻りもないわね」

やかましい！

そういえばミズキって結構人気あるんだよね

リーフ

「そうなの？」

この前の人気投票もなにげに高かったし。まあツンデレキャラが良かったって意見が多かったけどね

ミズキ

「なんだか……素直に喜んでいいのかしら」

クロ

「おれっちゃんか票なかったす！（泣）」

レイド

「私も……（泣）」

……（苦笑）

次はリーフね

リーフ

「ボク？」

リーフはミズキのチームメイトを考えてる時に、レイドと共に即座に浮かんだんだ

ミズキ

「そうなの？」

うん。ミズキのキャラと違うキャラを考えていたら、のんびり屋と、しっかりしたお嬢様キャラが浮かんだんだ

クロ

「確かにレイドはお嬢様っぽいつすね」

レイド

「そう？　自分ではわかりませんわ」

ミズキ

「バトルの時に性格が変わるのをご飯の時凄くなるのはなんで？」

ウケ狙い（笑）

クロ

「……………」

…………ごめんなさい。これが僕の精一杯のウケ狙いです（泣）

ミズキ

「ホントにこういう才能はないのよね」

シクシク…………（泣）

最後はレイドね

レイド

「私？」

うん。レイドはこの小説で一番簡単に思い浮かんだキャラだね

レイド

「なんか手抜きな感じがしますわ」

き、気のせいだよ。でも最近レイドが空気化してるんだよね……

ミズキ

「言われてみれば……」

あと、皆さんに一つ謝ることがあります。ソーマとの戦いの時、本来レイドは洗脳装置を破壊した直後のジン達と合流する予定だったのですが……完全に忘れてしまいました（泣）

ミズキ

「本当ね。レイドがないわ」

それを思いだし、急遽クロの手伝いに回しました。すいませんでした……

クロ

「しっかりするっす！」

こんなことにならないようにしなければ……

こんなぐらいかな？

ミズキ

「所で本編は？」

全然……息抜きにこっちを執筆したんだよ

クロ

「はやく執筆するっす！」

努力するよ。ではこの辺で！

ミズキ

「またね」

記念企画

どうも皆さん、ユウキです。今回は半年&a m p、百話記念の説明をします。

ユウキ

「誓いはもう半年か」

七月二十日で半年だね

リサ

「でも百話って？」

うん。誓いと絆の本編、S Pを合わせるとこの話で百話なんだ。で、その記念企画ってわけさ

ミズキ

「なにやるの？」

ジン

「また人気投票ですか？」

ううん。今回の企画は……もし誓い・絆がアニメになったら誰に声優をやってもらうかです！

ユウキ

「どういうことだ？」

つまり、君達のに合う声優さんを考えようということさ……まあア

ニメになることはないだろうけど……

ジン

「なんかよくわかんない企画ですね」

ミズキ

「しかも誰か他の人がやっていたような……」

……とりあえず説明。これから出すキャラの声に合う声優さんを考えて、このSPの感想欄か、僕にメッセージを送って下さい。キャラは……

誓いからユウキ、リサ、ジン、チサ、ミズキ。

絆からレナ、リュウタ、ショウ、キョウコ、ユリノ。

この十キャラの中で合う声優さんを考えてもらいたいです。ちなみに何キャラでもOKですが、一キャラに一人の声優さんでお願いします。

レナ

「何となくわかったけど……もし来なかったらどうするの?」

そんなこと言うなよ……僕はそんなことない!　って考え……たいよ……↑だんだん小声になってる

リュウタ

「みんな!　どんどん企画に参加してくれよう!」

ちなみに期限を延長して、八月十五日までにします。

ユリノ

「どんな声優さんかな……」

キヨウコ

「ふわぁ〜楽しみだね〜！」

今日はキャラ多いな……では最後に、これからも、誓い、絆、共に
よろしく願います！ では！

連載を終えて

みなさんどうも、ユウキです。ついに誓いはエンディングを迎えました

ユウキ

「飽きっぽい作者が完結するとはな……」

ほっとけ。今回はお知らせを二つと、連載を終えての感想などです

ユウキ

「退屈そうだな」

やかましい！

えゝまずはお知らせから……まず一つ、完結を記念して、第一回、総合人気投票を行いたいと思ってます

リサ

「あれ？ 前に人気投票したよね？」

あれは誓いのメンバーだけでしょ？ 今回は絆のメンバーも含めるよ

リサ

「混沌は？」

まだ話が進んでないから今回はなし。詳細は近いうちにお知らせします

二つめは……誓いの続編を書きたいと思います！

全員

『はっ？』

いや、だってこの先もまだゲームは続くじゃん

ユウキ

「まあそうだな」

だから終わらせない！ いや、止めたくない！

ユウキ

「俺達の冒険は終わらないのか」

そういうことさ（笑）

では、ここからは僕が完結を迎えての感想や反省をしています。結構長くなるかもしれないので、心の広い方は読んでくれると嬉しいです――

去年の冬、僕はあるきっかけでこのサイトを見つけ、ある方のポケモン小説に出会いました。

その時は、暇つぶし程度で見ましたが、だんだんとその世界に引き込まれていきました。

それからは、他の方の小説を読みあさり、だんだんと僕も書きたくなっていったのが、誓いを書きはじめたきっかけでした。

初めは文章が下手だわ説明も下手だわバトルもだめだわといとこがなく、今見ても情けないと思います。あつ誓いはちよくちよく修正しますので、修正したら活動報告に書きますね

ミズキ

「長いわよ」

良いじゃん……あれ？ ネズミとヒヨコは？

ミズキ

「用があるからって帰ったわよ」

なるほど。だから変わりにお前がきたのか

ミズキ

「まあね。って別にあんたのためじゃないわよ！」

ツンデレツンデレ（笑）

では話を戻して……一時期は執筆するのを止めようかと思った時期もありました。ですが、ある方に励まされ、読者の方達が読んでいると思い、それを支えにして、ここまでくることが出来ました。

ミズキ

「結構苦勞したのね」

さて、反省はここまでにして……物語の裏話に移りますね。

まず、一番苦勞したのが、ユウキとりサのやりとりですね

ミズキ

「そうなの？」

うん。いやゝ二匹のやりとりは大変だった。特に恋愛が絡むやりとりなんか半殺しだよ（汗）

ミズキ

「経験ないしね」

ほっとけ。もし物足りなかったら申し訳ありませんでした（泣）

ミズキ

「他にも苦勞したことはあるの？」

まあね。キャラの名前が死ぬほど苦労した

ミズキ

「はっ？」

前にも言ったけど、僕名前つけるのが苦手なのだ

ミズキ

「そういえば……」

だから他の人の名前貰ったこともあるしね。いや、それでこの先も続くかなあ？

ミズキ

「そんなの知らないわよ」

逆に知ってたら怖いわ

あとはそうですね……オリジナルも苦労しましたね。ソーマ編もあそこまで長くなる予定はなかったんです

ミズキ

「ダラダラやったらああなったのよね」

反論の余地もない（泣）プラスル、マイナンの兄妹の話も一話完結の予定でしたが……

ミズキ

「計画性のなさがでたわね」

うるさ〜い！

え〜続編は新しいポケモンも出す予定です

ミズキ

「時・闇ベースなのに新しいポケモン？」

オリジナル話で絡ませる予定さ

ミズキ

「上手いくのかしら？」

なんとかするよ！ えっと、ここまで読んでくれてありがとうございます
ございました。僕の反省会はこの辺でお開きとします

ミズキ

「付き合ってくれて、ちよつと感謝してるわ。ちよつとよ！」

素直になれよ。え〜誓いの続編も頑張りますので、絆、混沌と共に
応援よろしくお願いします！

最後になりましたが……誓いを読んでくださった方々……本当に
ありがとうございました！！ これからもよろしくお願いします！
！

総合人気投票の詳細発表!!

どうも皆さん、ユウキです。今回は総合人気投票の詳細を発表します

ユウキ

「またグダグダになるか？」

きつと大丈夫！

今回の人気投票は、三つに分けます

リサ

「どういうこと？」

まあ聞いてよ。とりあえず誓い部門、絆部門、総合部門に分けます

それぞれ三票ずつ、総合部門のみ一票にします

つまり例を挙げると……

誓い部門

ユウキ 一票

リサ 一票

ミズキ 一票

絆部門

レナ 一票

ショウ 一票

キョウコ 一票

総合

リュウタ 一票

みたいな感じですよ。誓い部門と絆部門の票の使い方は自由です。一人に三票したり、一人に二票、もう一人に一票みたいな感じですよ。

総合部門は、誓い、絆の中から一番好きなキャラに一票のみお願いします。それ以上の票は無効になってしまいます（汗）

投票キャラは、先程の誓い、絆部門で選んだキャラを選んでもOKですよ。

全部投票してくれたら凄いうれしいですが、忙しい方は、どれか一つだけの部門への参加もOKです

出来れば投票理由をつけてくれると、作者は飛び上がって喜びます

投票方法は、この誓いのSPの感想欄、または僕にメッセージを送ってください。僕のマイページから送れます

期限は、今日から、十一月の十五日までにします

こんな感じかな

ユウキ

「……前に似たような形式を取ってる人がいたような……」これし
か思い付かなかったんだよ……」ご了承ください（土下座）

チサ

「また宣伝行かなきゃー♪」

リーフ

「そうだね」

迷惑にならない程度にね（汗）

では皆さんよろしく願いします！

総合人気投票の詳細発表!! (後書き)

ユーザー登録していない方も感想を送れるように設定しましたので、
どんどん参加してくださいね!

皆さんよろしくお願いします!!

総合人気投票結果発表！

人気投票結果発表〜！ イエーイ！

ユウキ

「……………」

リサ

「テンション高いね……………」

まあいいではないか♪

レナ

「で、どっちから発表するの？」

そうだな〜くじで決めよう

ユウキ

「この二つのどっちか引けばいいのか？」

うん

レナ

「どっちから？」

じゃあレナから

レナ

「私？ じゃあこっち」

右のくじね

ユウキ

「じゃあ左だな」

で、なんて書いてあった？

レナ

「あっ 私達が最初ね」

リュウタ

「よっしゃー！」

では絆組からいきましよう！

ではまず五位からいきましよう

レナ

「だれかしら？」

キョウコ

「わくわくー♪」

シヨウ

「……………」

リュウタ

「ぐあー！ オレかー！」

残念、リュウタは五位の三票でした！ 理由はおバカキャラがいい
という意見が多数でしたー

リュウタ

「ならもつと知的になれば！」

むりむり（笑）

では四位にいきましょう！ 四票入りました！ そのキャラは……

ユリノ

「えっ？ ボク……？」

ボクっ子のユリノが第四位に入りました！ 理由は人見知りがかわ
いい、ボクっ子なのがいいという意見が多かったです

ユリノ

「あの……投票……ありがとう……」

レナ

「かわいいー♪」

キョウコ

「確かにー♪」

ユリノ

「えっ？ えっと……」

はいはい、次いくよ。第三位にいきます！ 六票入りました！ それ……

ショウ

「……俺か」

主人公の一人、ショウが第三位に入りました。理由はやっぱりクルナのがカッコイイという意見が大半でした

ショウ

「感謝する」

キョウコ

「やったねー♪」

シヨウ

「……………そうだな」

リュウタ

「おお、予想外のリアクション（笑）」

では第二位にいきましょう！ 七票入りました！ それは……………こいつだ！

キョウコ

「イエーイ！」

絆メンバーのムードメーカー、キョウコが二位になりました！ 理由は明るくて元気なのがいいという意見がほとんどでしたね 理

キョウコ

「なんかおんなじような意見が多いねー」

まあお前はそれがインパクトが強いからじゃね？

では第一位にいきましよう！　ここまできてあいつが入っていないことはないでしょう……こいつだ！

レナ

「私？　やったわ！」

もう一人の主人公、レナが堂々の一位です。八票でした！

キョウコ

「一票差だったんだー……（泣）」

えっと、理由は、しっかりしてるけどちょっと抜けてるところがいい、あのハリセンが謎、ポケモンを愛しているのがいい、いつも一生懸命なのがいいなどの意見を貰いました！　思ったよりドジっ子なのが気に入られてましたね（笑）

レナ

「うう……喜べない……」

リュウタ

「ドージ♪（笑）」

レナ

「ドジじゃないもん！」

なんだかな～

思ったより接戦だった絆組でしたねー。では誓い組にいきましょう！

第五位からいきます！ 一票ずつ、六人に入りました！

ユウキ

「多いな……」

確かに（笑）

では一人目からいきますね！ まずはこいつだ！

ソーマ

「おや、私ですか？」

僕も以外だったキャラの一人目、元プクリンの仲間のソーマが入り

ました！ 理由は……ついてませんでした

ソーマ

「まあ出番が少なかったので仕方ないですね。でも嬉しいですね」

では二人目いきましょう！ 以外なキャラ二人目は……

レイド

「私！？」

最近空気化しているレイドが一票入りました！ 理由はカッコイイ、ユウキに雷鳴剣を教えたからなどの意見がありました！

レイド

「感無量ですわ（泣）」

なんじゃそりや（笑）

では以外なキャラ三人目はこいつだ！

ドダイトス

「ガハハハハ！！！」

いきなり高らかな笑いだ。ミズキ達のギルドの親方、ドダイトスに入りました！ 理由は豪快なのがいい、好きなポケモンだからという意見を貰いました！

ドダイトス

「ありがとな！ ガハハハハハハ！！！」

では四人目にいきましょう！ こいつだ！

クロ

「やったっすー！！！！」

念願のランクイン！ イーブイのクロが入りました！ 理由はキャラクターが気に入った、好きなポケモンだからという意見を貰いま

した！

クロ

「感無量っす！（泣）」

レイドと同じとか

では以外なポケモン四人目、第五位の五人目にいきましょう！
こいつだ！

ペラップ

「私か！」

ギルドの情報屋、ペラップがランクイン！ 僕も全く予想してませんでした

ペラップ

「私の素晴らしさが伝わったのだ！ やはり私は——」

はいしゅーりょー

では最後の五位にいきましょう。それは……こいつだ！

チサ

「やったね♪」

少しランクダウンしましたが、なんとかランクインしました！
由はバトルが強い、明るくていいという意見がありました！
理

チサ

「やっぱり嬉しいねー♪」

キヨウコ

「やっぱりそうだよねー♪」

チサ・キヨウコ

『ねー♪』

いつの間にキヨウコいるんだよ。てかこの二人似てるなー

では四位にいきます。二票入りました。それは——こいつだ！

プクリン

「トモダチトモダチー♪」

我らが親方、プクリンがランクインしました。理由はキャラが好き、遠征の時にドクローズにいった台詞が好きという意見を貰いました！

プクリン

「ありがとねー♪」

では第三位にいきますね。四票、まさかの二人に入りました。それはこいつらだ！

ジン

「僕ですか？」

しっかり者のリオル、ジンがランクインしました。理由は礼儀正し

いのがいい、きっちりしてる、しっかりしてるという意見が多数でした

ジン

「やっぱり嬉しいです！」

では二人目です！ それはこいつだ！

ミズキ

「私ね」

ツンデレ嬢のミズキがランクイン！ 理由はほとんどがツンデレがいいという意見でした（笑）

ミズキ

「……喜べないわ」

まあまあ（笑）

では第二位にいきます！ 九票入りました！ それは……

リサ

「やったあ！」

主人公のパートナー、リサがランクインしました。理由は、一途なのがいい、成長ぶりが微笑ましい、女の子らしくてかわいいなどいろいろ意見を貰いました！

リサ

「すごい嬉しい！」

よかったね。では堂々の一位にいきましょう。まあ皆さんお気づきでしょう！ トップはこいつだ！

ユウキ

「ん？ 俺か」

二冠達成！ 主人公のユウキが十三票で一位でした。理由はカッコイイ、リサを思っているところが素敵、言動が潔くてカッコイイなどありました！

ユウキ

「そうか」

あと最終回でリサに気持ちを伝えたのが感動したって意見もあったよ

ユウキ

「あれは……まあ……なんだ……」

珍しく焦ってる（笑）

では総合にいきましょう！ では三位、一票ずつ四人に入りました！ テンポよくいきますね。

ユウキ

「急になんだ？」

いやーさすがにここまでダラダラやってきたからねーでは一人目いきましよう！

ペラッ

「ハッハッハ！ やっぱり私にも入っていた！」

全くもって予想していなかったペラッ……正直ビックリです（笑）

ペラッ

「だから私は——」

はい強制しゅーりょー（笑）

では二人目にいきます。こいつだ！

プクリン

「トモダチー♪」

親方も総合にランクイン！ まな弟子と仲良くといった具合ですね

ペラッ

「さすが親方様！」

お祝いにセカイイチあげるね

プクリン

「わーいセカイイチー♪」

では三人目！ こいつだ！

ロック

「ガハハハハ！」

皆さん覚えているでしょうか？ ソーマ編の時のアホな敵、ドサイ
ドンのロックがランクインしました。

ロック

「我輩の魅力が伝わったな！」

お前が魅力とか言うとか気持ち悪いわ

では最後の一人にいきましょう。

ロック

「ガッハハハハハハ！」

ミズキ

「また私!？」

ツンデレ嬢の人気は底知れず! 堂々のランクイン!

ミズキ

「べっ別に嬉しくないんだから!」

ツンデレ(笑)

では第二位にいきます。二票入り、まさかの二人! ではまず一人目いきましよう!

レイド

「……嬉しすぎましわ（泣）」

まさかまさかのレイドが二位！　これは出番を増やさねばと思う今日この頃（笑）

レイド

「もっと出番増やしてください」

いまの状況だと厳しいなー

では二人目にいきましよう！　こいつだ！

ユリノ

「ボッボク！？」

ボクっ子のユリノが主人公達を抜いて栄えある二位にランクイン！
実は絆メンバーで総合にランクインしたのはユリノだけです

ユリノ

「ほっ本当にボクでいいの！？」

大人しいユリノがテンパってる（笑）

では……一位にいきましょう……一位は四票獲得の……こいつだー
ー！！

ユウキ

「よしっ！」

三冠達成！ これは主人公補正なんじゃないかと僕も疑いました（汗）

ユウキ

「読者の方々には感謝してもしきれないな……」
今回の人気投票はこんな結果になりました。いかかでしたでしょうか？

リュウタ

「一番だったユウキ先輩にはなんかねーのか？」

んー……なんか欲しいの？

ユウキ

「ない」↑キツパリ

じゃあ……いつになるかわからないけど、番外編を書く？

ユウキ

「どんなのだ？」

まあ一話だけだけど、お前視点で書いてみるか

ユウキ

「……まあ構わないが」

ではなんとか時間を作ってこのSPに番外編を載せるので、楽しみにしててください！

最後になりましたが、投票してくれた皆様、本当にありがとうございます！
これからも誓い、絆、更新が止まっていますが混沌もよろしく願います！

一周年記念企画の説明

ユウキ

「今度はなにをするんだ」

もうすぐ一周年だからさ、また企画

ユウキ

「企画好きだな……」

まあまあ。とりあえず説明。えゝ今回はバトル大会をしたいと思います！

ユウキ

「はっ？」

ゲストを呼んで君達とバトルさ

説明します。お一人三名まで自分のキャラを選ぶことが出来ます。その選んだキャラと僕のキャラがバトルをするという企画です

ユウキ

「つまり他の作品のキャラと俺達が戦えるということか」

イエスザツツライト。とりあえず僕のキャラは誓いからユウキ、リサ、ジン、チサ、ミズキは鉄板ですね。絆はレナ、リュウタ、ユリノ、シヨウ、キヨウコが確実に出ると思います。まあ増えたり減ったりするかもです

できれば選んだキャラの使える技やバトルスタイルを書いてくれるとありがたいです

期間は今日から一月の十日までにします

参加方法は、僕に出るキャラと、よかったら技やスタイルを書いて、僕にメッセージを送ってください。感想欄でもいいですが、出来たらメッセージでお願いします

ユウキ

「面白そうだ」

皆さんどんどん参加してください！ お願いします！

ユウキ達のクリスマス（前書き）

今回はクリスマススペシャル！　ちなみにユウキ視点で進みます

ユウキ

「前に言ってた俺視点か」

まあそういうこと。ではクリスマススペシャルをどうぞ！

ユウキ達のクリスマス

俺は寒い風に反応して目を覚ます。めっきり冬になり、最近ではなにかかけるものがないと、寒くて仕方ない。

俺はもともと寒いが苦手だ。正直一年中25度くらいでいてほしいものだ。まあ思っただけでも仕方ない。

そういえばリサはまだ寝ているのだろうか？ ふと横を見ると、隣のベッドにリサの姿はない。どうやら先に起きて、どこかにいったようだ。

「俺も起きるか」

もう一眠りするかと思ったが、寒さのせいで俺の頭は完全に覚醒してしまっただけで、とりあえず寝ることは出来なかった。仕方なく俺は、リサがいるだろうギルドへと向かって歩きだした。

「……なんだこれは？」

俺はギルドに着くと呆気にとられた。建物に色とりどりのイルミネーションが施されていた。嗚呼……そういえば今日はクリスマスだったな。

「中で準備しているのか？」

俺はギルドの中に入っていく。中ではツリーを飾ったりケーキを作ったりと忙しそうだった。

「ユウキ！ 手伝って欲しいでゲスー！」

なにかの箱を持ちながら、ビッパが俺に声をかけてきた。正直俺はパーティーとかには興味無い。

「大変そうだな。ぜひ頑張ってくれ」

とりあえずビッパの箱を運ぶのを手伝い、俺はギルドを後にした。すっかり忘れてたとはいえ、俺にはすることがある。それを成す為に、トレジャータウンへと向かった。

その夜、ギルドでクリスマスパーティーが開かれていた。俺もそ

こに出席していた。いや、させられたと言った方が正しい。ちなみに、リサはずっとケーキの制作に関わっていたそうだ。……手が無いのどうやって調理するんだろうな。

「みんな揃ったね♪ では始めよう！　せーの」

『メリークリスマス！！』

弟子達は一斉に掛け声をあげる。やれやれ、俺にはこのテンションについていけるとは到底思えない。途中で抜け出すか。

「みんなー親方サンタの登場だよー♪」

親方部屋から、プクリンがサンタのコスプレをしながら出てきた。……このパーティー、確実にプクリンが主催だろうな。

「サンタからプレゼントだよー♪」

プクリンは担いでいる袋からプレゼントを取り出し、みんなに配りだした。そのプレゼントは俺にも渡された。

「キャー！　マフラーですわー！」

「手袋でゲスー！」

「なんだこりゃ？　ビックリ箱じゃねえか！」

「それ当たりだよ♪」

みんなプレゼントに一喜一憂している中、俺もプレゼントを開け

ると、中にはセカイイチが入っていた。

「それ大当たりだよ♪」

なるほど、プクリンらしいプレゼントだ。まあセカイイチは食べたことなかったし、いい機会だ。

「じゃあみんな、楽しんでね♪」

『はーい!』

プクリンの合図に、弟子達は一斉にはしゃぎだした。俺はこれについていけそうもない。俺はこっそりとギルドから外に出た。

「寒いな……」

俺が外に出ての第一声がそれだった。朝も寒かったのだから当然だろう。

「星が綺麗だな」

俺は寝転がりながら星を眺める。こういうのは嫌いではない。

「あついたいた」

ぼんやりしていると、リサがギルドから出てきた。なぜかサンタの帽子を被っている。先程のプレゼントの中に入っていたのだろうか。

「どうした？」

「ユウキが外に出るのが見えたから。隣いい？」

「嗚呼」

ありがとと言いながら、リサは俺の隣に座った。近くにいるせいか、リサの体温が少し伝わってくる。

「あっユウキ、はいこれ」

リサは俺に綺麗にラッピングされた箱を差し出してきた。これは……クリスマスプレゼントか？

「プレゼントか？ 開けていいのか？」

「うんっ」

俺は丁寧にラッピングを解き、開けてみると、中にはマフラーや手袋などの防寒具が入っていた。

「今使ってるのもうボロボロでしょ？」

「そういえばそうだな。ありがとなりサ」

今使っているのは所々解けてしまったり少し穴が空いていたりなど結構ボロボロになってきていたからな……これはありがたい。それより俺もだな。

「ほら」

「えっ？」

俺はリサに小さめの箱を手渡す。まだギルドが準備していた時に、カクレオンの店で売っていたものを買ってきた。

「ユウキ、クリスマスのこと興味なさそうだったから無いと思ってた……」

「不意打ちだったか？」

「ちよつとね。でも凄い嬉しい！ 開けていい？」

「嗚呼」

リサは箱を開けてすぐに驚いた顔になった。中にはシルバーで出来たネックレスが入っている。まあ探検の時はスカーフをしているから被るなと思ったが、リサに似合いそうだから買ってきた。その時カクレオンに、『リサさんにですか♪』とニヤニヤされたのはここだけの話だ。

「ありがとうユウキ……大切にするね」

リサは顔を赤くしながら礼を言うと、俺に寄り添った。じかにリサの体温が伝わってくるとともに、安心感を覚えた。

俺達はそのまま、しばらく満天の星空を眺めていた――

初めてのお正月

寒空の中、ユウキは草のベッドの上で目を覚ました。今日はいつにも増して寒く、寒いのが苦手なユウキには苦痛な日だった。

本来ならば、もっと遅くまで寝ているのだが、今日はいつもより早くに起きたのだ。その理由は、

「ユウキ！ 今日はお正月だから早く起きて！」

トリサに起こされ、渋々起きたのだ。ユウキにとって、正月だろうがなんだろうが、平日と変わらないと思っているので、面倒なところの上ない。

「ほら早く！ ギルドに挨拶行こう！」

やけに張り切るリサ。だが、別段張り切る理由は無いとユウキは思っていたのだ。実は前日、ユウキとリサは、ギルドで年越しパーティーをやったのだ。そこで新年の挨拶は言ったので、別に必要ないと思っていた。

「なあ、ギルドに行つてどうするんだ？」

「え？ 今日挨拶と、初詣だよ」

「初詣？」

思っても無かった単語にユウキは復唱してしまった。人間だったユウキには初詣の意味は当然わかる。だが、そのような人間らしい

ことを、ポケモンもやるとは思ってもなかったのだ。

「まあそれならいいか。なら行くぞ」

「うんっ」

ユウキは手袋とマフラーをすると、リサを連れてギルドへと歩きだした。

サメハダ岩を出て、途中に通るトレジャータウンでは、建物の至る所に門松が置いてあった。こういう所も人間と変わらないようだ。そんななか、普通店は休みにする中、カクレオン商店だけは開いていた。

「あっお二人共あげましておめでとうございま〜す♪」

「おめでとうカクレオン！ 今日もお店やってるの？」

「はい〜♪ お正月でもやっぱり商売したいんですよ〜」

カクレオン兄弟の兄の方が答える。正月でも商売なんて、カクレオンは根っからの商売人なんだな、とユウキは思った。

「おい、早く行った方がいいんじゃないか？」

「そうだね。じゃあねカクレオン」

「なにか欲しいものがあつたらよろしくお願いしま〜す♪」

最後にしっかり宣伝を残したカクレオン達と別れると、ユウキとリサは再びギルドへと足を運び出した。

「おやライトニング、来たのかい♪」

「嗚呼」

「おめでどうペラップ」

ギルドに着くと、調度ギルドに入ろうとするペラップに鉢合わせた。どうやらなにか買い出しに出ていたらしい。

「すぐに神社に行くから早く入りな」

「うん、わかった」

ペラップに連れられてギルドに入ると、既にギルドの弟子達は、親方部屋の前に集まっていた。

「じゃあ親方様を呼んで来るから、みんなはここで待っていてくれ」

そう言うと、ペラップは親方部屋へと入っていった。どうやらまだプクリンは寝ているようだ。

残された弟子達は、おしゃべりに花を咲かせていた。

「ユウキ、リサ、あけましておめでとうでゲス！」

「おめでとうですわー！」

「うん、おめでとう！」

ビッパとキマワリが笑顔で新年の挨拶をしてくる。それに答えるリサだが、ユウキには年越しパーティーの時に挨拶したのに、なぜまた言うのかわからなかった。

ポケモンと人間はやはり違うのだろうか、何となく思っている
と、部屋からペラップと、少しフラフラしながら、プクリンが歩いてきた。

「全員揃ったね。これから神社にお参りに行くよ♪ では親方様、一言お願いします」

「……ぐうぐう……ぐーうぐう……」

ペラップの言葉に反応したのか、それとも偶然か、プクリンはいびきで答える。こんな光景はギルドの弟子の時に沢山見たので、ユウキは何も思わなかった。

「ありがたいお言葉、ありがとうございました！ ではみんな、神社に行くよー！」

『おおーー！！！』

一斉にギルドの弟子達は掛け声を上げる。年が明けても、この空気が変わることはないんだな、とユウキはなんだか少しおかしい気持ちになった。

ギルドを出て十分弱で、目的の神社にたどり着いた。造りは人間の神社と特に変わっていない。強いて言うなら、狛犬がガーディになっているぐらいだ。

どうやらこの神社は有名らしく、沢山のポケモンがお参りに来ていた。

「……なあ、なんでこんなに多いんだ……？」

少し嫌になりながら、ユウキは小声でリサに問い掛ける。この寒空の中、ただでさえ眠くて機嫌があまり良くないのにこのポケモンの数だ。現にユウキは少し不機嫌になっていた。

「ここはお願いが叶うって評判なんだ。だから私もお願い事しようって」

「そうか……」

リサの言葉に納得するものの、これで願いが叶わなかったらどうしてやろうかと、ユウキは奉られている神様にぼやきながら列に並んでいた。

しばらく列に並びながら、リサや弟子達と話をしていると、自分達の番がやって来た。見た目も造りも人間のと変わりない。だからなのか、ユウキはなんだか懐かしいような気持ちになった。

「おさい錢おさい錢……」

リサは自分の財布の中から、五ポケ出すと、賽銭箱の中に入れた。それに連れて、プクリンや他の弟子達も賽銭を入れる。まあ自分とユウキも十ポケ賽銭箱に入れた。

全員入れるのを確認すると、プクリンが代表してあの大きい鈴をガラガラ鳴らす。

『…………』

弟子達は皆思い思いのお願い事をする。そんな中、ユウキもあることをお願いした。

お願い事が終わると、弟子達は賽銭箱の前から退くと、それぞれなにを頼んだか話し出した。

「ユウキ、何お願いした？」

「さあな。そういうリサは？」

「私も秘密♪」

ニコニコしながらリサは言う。他の弟子達も秘密にしたり、ちょろっと話していたりと様々だった。そんななか、プクリンだけは「セカイイチが沢山食べられますようにー♪」というお願いをしていたようだが。

（神頼みより、俺は自分で願いを叶えていくか……）

「どうしたの？」

「いや、別に」

ユウキはそう言いながら、自分がお願したことを考えていた。そして偶然か、リサも自分のお願のことを考えていた――

リサと――

ユウキと――

ずっと一緒にいられますように――

初めてのお正月（後書き）

というわけで、新春一発目どうでしたか？
予定なので、楽しみにしていて下さいね！

誓いの本編は本日更新

一周年記念バトル大会!

ついに、ついに始まる記念バトル大会!

ユウキ

「どうした?」

なんか熱が入ってしまったのだ。それに沢山の方が参加してくれて嬉しくて! 皆さんありがとうございます!

リサ

「で、この扉は?」

あっこのごつい扉? ここからゲストが来てくれるんだ……ん?

ユウキ

「なんだこの音?」

来客のベルだ。誰か来た!

?????

「ここが会場なのね」

おっチジルさんの作品「ポケット物語〜青色の玉」からピカチュウのピカが来ました!

ピカ

「今日はよろしくね!」

ユウキ

「よろしくな」

リサ

「よろしく!」

チリリーン♪

おっまたベルが鳴った。次は誰かな？

?????

「来てやったぜ!」

?????

「いきなりそれかスタール」

?????

「……うるさい」

クローネさんの作品「MYTH」からゴウカザルのサルコ、ムク
ホークのスタール、レントラーのグランです!

サルコ

「今日は思い切りバトルするか!」

レナ

「凄い気迫ですね」

スタール

「俺様が勝ちまくってやるぜ!」

グラン

「バトルは一回だろうが……」

スタールらしいね（笑）

チリリーン♪

ユウキ

「また来たな」

またってなんだよ。とにかく次は誰かな？

?????

「ここが別世界か。あまり僕達の世界と変わらないね」

?????

「ここでどんなバトルが始まるか楽しみだぜえ！」

おお、エメラルドさんの作品「ポケモン不思議のダンジョン 新伝説
時の記憶」からリオルのシアンと人間のゼアんです！

シアン

「よろしくお願いしますね」

ジン

「僕と同じリオルなんですネ」

シアン

「君もリオルなのか」

チサ

「ジンが二人いておもしろーい♪」

同じ種族だと見分けがつかないね

チリリーン♪

次のお客様は？

?????

「おっだいぶ揃ってるな」

?????

「皆腕が立ちそうでござるな」

?????

「頑張るツス！」

次はGさんの作品「ポケットモンスター コバルト」からリオルのルーク、ダブルのシノビ、カラカラのメットです！

ジン

「また僕が増えました（汗）」

ルーク

「おっリオルが二匹もいるぜ」

シノビ

「見分けがつかないでござるな」

やっぱりシノビもそう思うみたいだね

チリリーン♪

リサ

「次の人来たよ！」

ほいほい。次はどなた？
?????

「まったく遅れちゃったぜ！」

?????

「まあ仕方ないでしょう」

ユウキ

「見たことのないポケモンだな」

ノコタロウさんの作品「ポケモン不思議のダンジョン 葉炎の物語」からサメハダー、ズルズキンです！

レナ

「ズルズキンさん？ 見たことないわね」

まあ君達のいる地方にはいないからね

リュウタ

「じゃあ知るわけねーな」

ズルズキン

「とにかく今日はよろしくお願いします」

チリリーン♪

ユウキ

「次来たぞ」

?????

「結構来てるな」

?????

「僕達遅いほうなのかな？」

?????

「時間には間に合ってるから大丈夫でしょ」

おお！ プラネットさんの作品「ポケダン 光と闇の交錯」から
ルカリオのデルタ、フシギダネのシギ、エネコのエネです！

ユウキ

「このルカリオ……出来るな……」

デルタ

「なんだ、もう戦闘体制か？」

気が早いつて

チリリーン♪

キョウコ

「次来たよ」

?????

「結構遅くなったね」

?????

「エイトが寝坊するからだよ!」

?????

「寝坊したのはリナだろ……」

次は*snow white*さんの作品「ポケモン ジョウト
ADVENT」からポケモントレーナーのエイトとリナです!

レナ

「久しぶりエイト君! リナちゃん!」

エイト

「やあレナちゃん。今日はよろしくね」

リナ

「よろしくねー♪」

リュウタ

「今日は勝負だリナー!」

リナ

「リュウタ！ わたしが勝つんだからー！」

いやいや、バトル相手の決め方はちゃんとあるからね（汗）

チリリーン♪

ユリノ

「次来たよ……」

えっとこれで最後みたいだね

?????

「大変だよキセキ！ わたし達最後だよ！」

?????

「ナイトが遅れるからよ」

?????

「オレのせいかな!?」

最後は桜さんの作品「ポケモン不思議のダンジョン」時の奇跡・闇の運命」からチコリータのキセキ、アチャモ、ブイゼルのナイトです！

アチャモ

「遅れてすいません！」

別に大丈夫だよ。これで全員揃いました！

ユウキ

「何人いるんだ？」

八作品で十九キャラです！　こんなに沢山来てくれるなんて……
(号泣)

ユウキ

「もう一組あったんじゃないか？」

実はあったのですが……一応ポケモンとしてやっているので……
メッセージでも謝罪しましたが、ここでもお詫びの言葉を申し上げます。
本当に申し訳ありませんでした！　(土下座)

ユウキ

「ご理解して頂けるとありがたい」

ではバトルを始めます！

デルタ

「どうやってバトルの相手を決めるんだ？」

今回は僕のキャラとゲストの方とバトルなので、くじを作りました

ユウキ

「なんだ、ゲスト同士のバトルは見れないのか」

そんな、ほかの作者さんのキャラ同士をバトルさせるなんて僕には
恐れ多くて出来ないよ (泣)

ではくじを引きますね。えーっと……まずユウキ。

ユウキ

「いきなりか……」

相手はっと……Gさんの作品からドーブルのシノビ！

シノビ

「拙者か！」

じゃあ今回のバトルフィールドは……↑ポチッとな

シノビ

「あんな装置があつたのでござるか」

ユウキ

「無駄に経費がかかってるな」

今回のバトルはノーマルに草原です！

ユウキ

「べただな……」

ほっとけ。じゃあ審判

ペラップ

「私が審判だど！？」 まあいいだろう。ではユウキ対シノビのバトル開始！」

ユウキ

「先手必勝！ 十万ボルト！」

シノビ

「甘いでござるよユウキ殿！ 影分身！」

おっと！ 十万ボルトはシノビの影分身に当たった！ だが分身の数はまだ多いぞ！

リサ

「なんか解説やってるよ」

ユウキ

「なら……電撃波！」

ここで必ず当たる雷だ！ シノビどうする！

ピカ

「あなた達の作者さん気合い入ってるわね……」

ジン

「ははっ……（苦笑）」

シノビ

「穴を掘る！」

シノビ地中に潜ることで雷の回避に成功したぞ！ ネズミはどうでる！？

ナイト

「ユウキには扱い酷くないか？」

レナ

「いつものことなんです（汗）」

ユウキ

「どうでるか……なに!？」

なんとシノビが地中から四体出てきたぞ! どうなってる!

シノビ

「身代わりでござるよ! 更に影分身!」

シノビが更に増えたぞ! 一体どれが本物だ!?

ユウキ

「くっ面倒な……」

シノビ

「燕返し!」

凄い数のシノビが一斉に攻撃してきたあ! これはまずいぞ!

ユウキ

「アイアンテール!」

反撃でアイアンテールを放つがそれは分身だあ! 本物にも身代わりにも当たっていない!

シノビ

「いくでいぎる!」

ユウキ

「ぐあっ！」

身代わりを含めたシノビ四体が一斉にユウキに燕返しを決めたぞ！
絶対絶滅か！

ユウキ

「どうする……よし、フラッシュユ！」

体から眩しい光を放った！　　ってか僕の目も眩ませるな！

シノビ

「くっ……だが燕返しにフラッシュユなど意味を成さぬでござる！」

おおっ！　お構い無しに燕返しだ！　いくら命中率を下げてても燕返しには意味を成さないぞ！

シノビ

「終わりでござる！」

シノビがユウキに燕返しを決めたぞ！　これは決まったか！

ユウキ

「……………」

シノビ

「……………なっ！」

なんだ！？　ユウキが光の粒子になってしまったぞ！　これは驚

きです！

ユウキ

「終わりだ！」

おお！ ユウキが地中から出てきたぞ！ しかも雷鳴剣を二本持つているぞ！

ユウキ

「ガンレイズ・サンダー！」

シノビ

「ぬっ！」

雷鳴剣から小さい雷の球体が発生してシノビの分身を消してしまった！ 残ったのはシノビの本体だけだ！

ユウキ

「終わりだ！ ボルテックススタイル……ライジング・ブレイカー！ ！」

シノビ

「拙者は諦めない！ 燕返し！」

凄いぶつかり合いだ！ これはどっちが勝つかわからないぞ！

ユウキ

「うおおおお！」

シノビ

「ぬうううう!!」

うわっ! 爆発が起こった!

リサ

「ユウキ! シノビさん!」

これはどうなったんだ……?

ズルズキン

「煙りが晴れてきましたよ!」

ユウキ

「ハア……ハア……」

シノビ

「ぐっ……」

両者立っているぞ! これはまだ決着が……

シノビ

「……………」

ああっ! シノビが倒れたぞ!

ペラッ

「シノビ戦闘不能! 勝者ユウキ!」

ユウキ

「勝った……ぐっ」

うわっ！ ユウキも倒れた！ 救護班治療を頼む！

レオナ

「わかった！」

リサ

「レオナが救護班なんだ」

治療出来るからね

メット

「凄い試合だったッス！」

だね！ では次の試合に行きましょう！

ジン

「字数大丈夫なんですか？」

多分ね。ではくじを……おっまずミズキ！

ミズキ

「私？」

次は……クローネさんの作品からスタール！

スタール

「俺様か！ 嬢ちゃん相手でも手加減しないぜ！」

ミズキ

「そんなことしたら怒るわよ！」

ではバトルフィールドをと↑ポチツとな

ユウキ

「なんだ、草原から岩場に変わった」

復活早いね……とにかく今回のバトルフィールドは岩場に決定！
じゃあペラップお願い

ペラップ

「ではミズキ対スターのバトル開始！」

スター

「いくぜ！ 翼で打つ！」

ミズキ

「直線的ね！ 葉っぱカッター！」

スターの先制攻撃にも動じずに葉っぱカッターを放った！ ス
ターはどうでる！

スター

「邪魔だぜ！ 吹き飛ばしから燕返し！」

おっと！ 葉っぱカッターを吹き飛ばしで飛ばしてしまった！
さすが年配者は違うぞ！

スター

「誰が年配者だ！」

僕としたことが口が滑ってしまいました。だがスタールはツツコ
ミながら燕返しを放っているぞ！

ミズキ

「これは避けられないわね……なら宿り木の種！」

スタール

「なにっ!？」

ミズキ

「キャアッ！」

なんとミズキ燕返しを受けながら宿り木の種だ！ これは珍しく
捨て身の行動だぁ！

スタール

「邪魔な弦だぜ！ まあいいか。これで終わりだ！」

スタール止めと言わんばかりにミズキに突っ込んできたぞ！

ミズキ

「葉っぱカッター！」

スタール

「考えが甘いぜ！ 影分身！」

影分身でスタールが増えたぞ！ しかも葉っぱカッターが当たっ
たのは分身だ！

ミズキ

「リフレクター！」

ここでミズキはリフレクターだ！ 多少打撃に強くなったがはたしてどこまで通用するかあ！？

スताल

「翼で打つ！」

ミズキ

「守る！」

ここで守るを使って翼で打つを防御！ さあスतालどうでる！

スताल

「ならこれで決めるか！ ブレイブバード！」

なんとブレイブバードだ！ 上昇して凄い勢いでミズキに突っ込んできたぞ！

ミズキ

「あれはマズイわね……」

苦し紛れか岩に隠れたぞ！ これは意味を成すのか！？

スताल

「意味無いぜ嬢ちゃん！」

なんと岩を破壊しながらミズキに突っ込んできたあ！ なんてパワーだ！

ミズキ

「フツッ岩に当たれば多少はパワーが落ちる。私はそれを狙っていたのよ！ カウンター！」

スताल

「マジか！ ぐっ！」

ここで捨て身のカウンターだ！ 決まったがミズキは耐えられるのか！？

ミズキ

「痛ったーい……」

なんと立っているぞ！ ミズキはそこまでタフだったのか！？

ユウキ

「なるほど、岩を破壊させてパワーダウンさせ、さらにリフレクターでダメージ減少、ダメージはだいぶ宿り木の種で回復しているからな」

サメハダー

「あのチコリータやるじゃねえか！」

スताल

「痛っ……油断したか。だが俺様は倒れちゃいねえぜ！」

ミズキ

「どれだけタフなのよ……でも私は負けないわよ！ 日本晴れ！」

おっとミズキ日本晴れで晴天にしたぞ！ てか日差しが暑い！

ミズキ

「ソーラービーム!!」

きたあ! ミズキ最強技のソーラービーム! 日本晴れの効果で
チャージ無しで放ったぞ!

スताल

「あれはマズイだろ! 高速移動!」

高速移動だとお!? スताल避けられるかあ!?

ミズキ

「私の勝ちよ!」

スताल

「それは違えぜ! ブレイブバード!」

なんとソーラービームを回避したのか!? スतालは地面ギリ
ギリの低空飛行をしながらブレイブバードをしてきたぞ!

ミズキ

「そんな……」

スताल

「決まりだあ!」

スतालのブレイブバードがミズキに決まったあ!! 凄いパワ
ーだ!

ペラップ

「ミズキ戦闘不能！ スタールの勝ちだ！」

スタール

「っしゅあ！」

凄まじいバトルでした！ このバトルはスタールの勝ちです！

サルコ

「やるなスタール！」

スタール

「なかなか疲れたぜ」

レオナ、ミズキの治療頼むよ

レオナ

「わかった」

ユウキ

「初っ端からかなりのバトルだな」

だね。ではとりあえず今回のバトルはここで区切りをいれますね。
次回もお楽しみに！

一周年記念バトル大会！（後書き）

ユウキ

「おい作者」

ん？

ユウキ

「あれだけ沢山のゲストを読んどいて会話もバトルもグダグダじゃないか」

………

ユウキ

「それでこんな企画やるなんてな」

僕も努力しているつも……り……（泣）

ユウキ

「泣いても駄目だ」

うう……こんな僕で皆さんすいません……（泣）

ユウキ

「言っというてなんだがかなり自虐的になってしまったな……」

一周年記念バトル大会! Round 2!

さあバトルの続き行きましょう!

ユウキ

「次は誰だ?」

まあ慌てなさんな。くじをとと……まずキョウコ

キョウコ

「あたしだ〜!」

もう一人は……エメラルドさんの作品からゼアン!

ゼアン

「ハッ俺様か!」

ではバトルフィールドはつと↑ポチツとな

キョウコ

「これまた草原?」

みたいだねではペラップ

ペラップ

「ではキョウコ対ゼアンのバトル開始!」

キョウコ

「お願いねピチュー!」

ピチュー

『ピチュー♪』

ゼアン

「ヒャッハー！　そこそこ楽しませろよな！」

キョウコ

「ポケモンは？」

ゼアン

「ねーぜ！　行くぜー！」

いきなりピチューに接近したぞ！　なんてスピードだ！　人間に
だせるスピードかあ！？

キョウコ

「電気ショック！」

ゼアン

「当たらねえ！」

なんとゼアンしゃがんで電気ショックを回避したぞ！　なんて反
射神経だ！

ゼアン

「ヒャーハハハ！　喰らええ！！！」

凄いパンチやキックの連打だ！　さながらインファイトのようだ！

キョウコ

「ピチューしっかりして！ 天使の――」

ゼアン

「喰らええ！」

なんだあ？ ゼアンはなにかの種を使ったぞ！

ゼアン

「た――まや――！！！」

いきなり爆発が起こったぞ！ あれは爆裂の種か！？

ペラップ

「ピチュー戦闘不能！ ゼアンの勝ち！」

ゼアン

「ヒャッハー！！ 俺様の勝ちだぜえ！」

キョウコ

「お疲れ様ピチュー」

ゼアンの戦闘能力が凄すぎるね……

ユウキ

「人間があそこまで身体を動かせるとはな」

とりあえず次行きましょう！ えつと……ジン！

ジン

「僕ですか？」

相手は——Gさんの作品からルーク！

ルーク

「よしっ勝負だ！」

ジン

「よろしくお願いします！」

ではバトルフィールドをと↑ポチッとな

ユウキ

「いちいち効果音いらないだろ」

気分だよ

ジン

「これは……」

ルーク

「森か？」

今回は森ステージです！

ペラップ

「ではジン対ルークのバトル開始！」

ジン

「いきます！ 電光石火からはっけい！」

ルーク

「見切り！」

寸前の所でルーク回避に成功！　ここからどうでる！

ジン

「しまった！」

ルーク

「はっけい！」

ジンの腹部にはっけいを決めたぞ！　かなりの威力だ！

ジン

「はっけい！」

ルーク

「見切り！」

ジン

「それを待ってました！　フェイント！」

これはジンが上手だったか！　ジンのパンチがルークの顔面を捕らえたぞ！

ジン

「気合い玉！」

ここで大技の気合い玉だ！　ルークどうする！

ルーク

「当たるか！」

ギリギリ右にステップして回避に間に合った！ さあどうでる！

ルーク

「気合い玉！」

ジン

「えっ！？」

なんとルークも気合い玉を使ったぞ！ これは驚きだ！

ジン

「ぐっ！」

ルーク

「決まり！ まあこれはまねっただけだな！」

まねっこ、なるほど。これでジンの気合い玉をコピーしたのです
ね！

ルーク

「はっけい！」

ジン

「こちらのものはっけい！」

お互いはっけいのぶつかり合いだあ！ パワーはどちらが上なん

だ!?

ジン

「うわっ!」

ルーク

「ぐっ!」

どうやらパワーは互角だ!　これは凄いバトルだぞ!

ジン

「ならスピードです!　電光石火!」

周りの木々を渡りながらスピードで攪乱し始めたぞ!　さあどうでる!

ルーク

「無駄に動かない方がいいな……」

おっと、ルークその場に留まっているぞ。なにをしようとしているんだ?

ジン

「はっけい!」

ルーク

「見切った!」

ギリギリの所でルーク回避したあ!　ジンのスピードでも通用しないのか!?

ジン

「なら一気に勝負を決めます！ 気合い玉！」

ルーク

「まねっこ！」

気合い玉同士のぶつかり合いだ！！ これはどちらが勝つんだ！？

ジン

「っ！！」

ルーク

「くそっ！」

相殺したあ！ 気合い玉のパワーは同等のようだ！

ジン

「はっけい！」

一瞬の隙についてジンがはっけいをルークにぶつけたぞ！ これはそこそこのダメーじになったぞ！

ルーク

「へっ……起死回生！」

ジン

「なっ！ うわっ！」

ルークの起死回生が決まったあ！ 体力が少ない今の起死回生は

かなりのダメージになるぞ！

ジン

「これで最後にします！ 気合いパンチ！」

ルーク

「俺が勝つ！ 起死回生！」

お互いの技がぶつかり合う！ ってうわ！ 爆発起こったぞ！

レナ

「凄い……」

ペラップ

「……！」

なんと両者ダウンしている！ これは――

ペラップ

「両者戦闘不能！ この勝負引き分け！」

まさかの引き分けだ！ 凄いバトルでしたね

ユウキ

「ジンもルークも凄かったな」

リサ

「そうだね」

レオナ

「やれやれ、また仕事か」

腐らないの。では次のバトルバトル——おっまずリーフ

リーフ

「僕く？」

まあね。相手は——プラネットさんの作品からエネ！

エネ

「私ね！」

ではバトルフィールドはつと——また草原みたいだね。じゃあペ
ラップ

ペラップ

「ではリーフ対エネのバトル開始！」

エネ

「スピードスター！」

リーフ

「当たるか!!！」

おっとリーフしゃがんで回避！　そして戦闘モードに入ったぞ！

リーフ

「葉っぱカッター！」

エネ

「吹雪！」

リーフの葉っぱがカタールが吹雪で凍ってしまったぞ！ さすが技の選択がうまい！

エネ

「ほら、来なさいよ！」

リーフ

「ちっお望み通りしてやる！ リーフストーム！」

葉っぱの竜巻が発生したあ！ エネどうでる！

エネ

「もう一度吹雪！」

またしても吹雪だ！ リーフストームまでも凍ってしまったぞ！

リーフ

「くそっ！ エナジーボール！」

エネ

「シャドーボール！」

リーフのエナジーボールもエネのシャドーボールに打ち消されてしまった！ これは打つ手無しか！？

リーフ

「ならとっておきだ！ ばかぢから！」

凄い力を込めながらエネに突撃していく！　だがそれは無謀じゃないかぁ！？

エネ

「吹雪！」

なんと！　吹雪で足元を凍らせてリーフの動きを止めたぞ！

エネ

「眠〜れ〜眠れ〜♪」

リーフ

「くっしま——」

エネの歌うが決まっ——僕まで眠く——Z Z Z

ユウキ

「起きろ」

ぐほっ！↑たんこぶ出来てる

エネ

「目覚ましビンタ！」

凄まじい勢いでリーフの頬にビンタが決まったぞ！　これは痛そうだ！

リーフ

「……………」

なんと目を回している！　なんて一撃だ！

リサ

「確か目覚ましビンタは寝ている時に威力が上がるのよね」

だからあんなに威力が高いのか

ペラップ

「リーフ戦闘不能！　エネの勝ち！」

今のは完全にペースを乱されたね

エネ

「まあ私の作戦よ！」

ネズミ並の作戦だな……さすがだ

では次のバトルにいきますね！　えっと――まずユリノ！

ユリノ

「ボツボク？」

相手は――桜さんの作品からナイト！

ナイト

「やっとおレか！」

キセキ

「頑張ってね！」

ナイト

「おっキセキに応援されたら負ける訳にはいかねえな！」

今回のバトルフィールドは――

ユリノ

「これ……水？」

今回のバトルは湖です！ 陸はほんのわずかの中、どう戦うかがカギになりますね

ペラップ

「ではユリノ対ナイトのバトル開始！」

ユリノ

「水なら……マリル！ お願い！」

マリル

『リルリルー！』

ナイト

「マリルか！ 不足はねえな！」

ユリノ

「マリル！ 潜って！」

マリルが水に潜ったぞ！ ナイトどうでる！

ナイト

「俺もいくか！」

ナイトも同じように潜ったぞ！　これは激しい水中戦になりそう
だ！

ユリノ

「マリル、アクアジェット！」

マリル

『リルー！』

凄いスピードでマリルが突っ込む！　さあナイトどうでるんだ！？

ナイト

「凄い勢いだな！　よっと！」

しっぽで水流を起こしたぞ！　なにが目的なんだあ！？

マリル

『リル！？』

なんと！　マリル水流に流されて狙いが反れたぞ！　ナイトはこ
れを狙っていたのか！

キセキ

「ナイトってあんなこともできるのね」

ナイト

「俺もいくぜ！　アクアジェット！」

さあ今度はナイトが凄い勢いでナイトに突撃する！ これも凄いパワーだ！

ユリノ

「マリル！ 捨て身タックル！」

凄いぞ！ マリルの捨て身タックルとナイトのアクアジェットのぶつかり合いだ！ どちらも凄いパワーだ！

ナイト

「ぐあっ！」

マリル

『リル！』

マリル打ち勝ったあ！ パワーはマリルの方が上か！

ナイト

「ちっなんてパワーだ！」

ユリノ

「アクアジェット！」

マリル

『リルー！』

ナイト

「ぐはっ！」

アクアジェットも決まったぞ！ これはナイトマズイぞ！

ナイト

「ちっ一旦出るか」

ここでナイト水から出たぞ！ この小さい浮島をどうつかう！？

ナイト

「一か八かだな。スピードスター！」

ナイトスピードスターを水に向かって放ち始めたぞ！ だがこれはマリルにダメージは与えられないぞ！

マリル

『リ……ルー！』

ユリノ

「マリル！？」

なんとということだ！ ナイトのスピードスターが水の流れをめちやくちやにし始めたぞ！ これはマリルつらい！

ユリノ

「一旦出て！」

ナイト

「そいつを待ってたぜ！ 電光石火！」

マリル

『リル！』

ナイトうまい！ マリルが水から出た瞬間に電光石火を決めたぞ！
これはなかなかのダメージが入ったはずだ！

ユリノ

「どうしよう……あまり使いたくなかったけど……マリル、腹太鼓
！」

マリル

『リール！』

腹太鼓？ えっと確か……

ユウキ

「体力を減らしてパワーを高める技だ」

そうそうそれだ！ だがマリルの体はボロボロになってしまったぞ！
これはもうもたないか！？

ナイト

「ならこれで決めるぜ！ スピードスター！」

星型のエネルギー弾がマリルに向かっていく！ これを受けたら
まずいか！

ユリノ

「一か八か……マリル、アクアジェット！」

マリル

『リールー！！』

なんと！ マリルはスピードスターに向かってアクアジェットを放ったぞ！ 無謀ではないのか！

マリル

『リルリルリルー！！』

ナイト

「冗談だろ！？」

スピードスターを打ち破ってしまった！ 一体マリルのパワーはどれ程あるんだ！

ナイト

「ぐはああ！！」

アクアジェットがナイトに直撃いい！！ さすがのナイトも目を回している！

ペラップ

「ナイト戦闘不能！ ユリノのマリルの勝ち！」

ユリノ

「お疲れ様マリル」

いやー凄いパワーだね

アチャモ

「なんであんなにパワーが凄いのか？」

マリルの特性のおかげだよ

アチャモ

「特性？」

ユウキ

「力持ちか」

そゆこと

では今回最後のバトルに行きましょう！
まずはと——おっリ
サ！

リサ

「私だ！」

相手は——ノコタロウさんの作品からズルズキン！

ズルズキン

「よろしく願いますね」

リ
サ

「こちらこそよろしくお願いします！」

じゃあバトルフィールドを——おつまた森みたいだ。じゃあペラッ

ペ
ラ
ツ
プ

「ではリサ対ズルズキンのバトル開始！」

リサ

「火炎放射！」

ズルズキン

「当たりません！」

おお、簡単に避けたぞ！ さあズルズキンどうでる！？

ズルズキン

「そんな攻撃で僕は倒せませんよ！ 本気を出したらどうです？」

リサ

「うっならお望み通りに！ 火炎放射！」

おっと、ズルズキンがリサを挑発したぞ？ なにか意味があるのか？

ユウキ

「いや、技の挑発だろ。補助技を封じられたな」

あっなるほど

ズルズキン

「ストーンエッジ！」

ストーンエッジで火炎放射を破ったぞ！ しかもストーンエッジは炎を纏いながらリサに向かって来ている！

リサ

「穴を掘る！」

地中に潜って回避に成功！ さあどうする！

ズルズキン

「どっちから来ますか……」

リサ

「エクス・クロー！」

ここで爆発する爪だ！ これはマズイぞ！

ズルズキン

「噛み砕く！」

リサ

「キャア！」

凄い！ 引っかく前に噛み砕くで止めたぞ！
うだ！ しかもかなり痛そ

リサ

「離して！ ファイヤーレイン！」

至近距離で炎の雨だ！ これはキツイか！？

ズルズキン

「くっ！ 跳び膝蹴り！」

リサ

「キャアアア！！」

超高威力の跳び膝蹴りがリサの腹部に命中したぞ！　これは大ダメージだ！

リサ

「うっ……」

フラフラしながらもなんとか立ち上がったぞ！　だがこれはズルズキンチャンスだ！

ズルズキン

「終わりです！　ストーンエッジ！」

リサ

「負けたくない……！　火炎放射！！」

ここで火炎放射とストーンエッジのバトルだあ！　だが火炎放射はまた破られてしまうのではないか！？

ズルズキン

「なっ！」

なんとストーンエッジで作られた岩を溶かしてしまった！　なんて火力だ！

リサ

「そっか……火炎放射！」

なんだ？　火炎放射を関係のない所に……ってまさか！？

ズルズキン

「周りの木が！」

マジかよ！ ネズミ！ レオナに知らせて消火の準備！ すぐに消せるようにさせろ！

ユウキ

「わかった！」

リサ

「ファイヤーレイン！」

ズルズキン

「諦めませんよ！ ストーンエッジ！」

炎の雨と岩の雨のぶつかり合——って爆発が起こったぞ！ どうなった！？

ペラッ

「……………」

おい審判！ どうなってる！

ペラッ

「私にも見えないん——あっ！」

こっちも煙りが……あっ！

ペラッ

「ズルズキン、リサ共に戦闘不能！ このバトル引き分け！」

なんとこのバトルも引き分けだあ！　　って早く消火消火！

レオナ

「わかった！」

リュウタ

「熱ちー！　火の粉が飛んできた！」

早くー！！

※しばらくお待ちくださいー

ふう、鎮火できたー

シギ

「びっくりしたね」

ピカ

「とりあえず被害が出なくて良かったわね」

とりあえず早く森ステージの修復しなくてはーとりあえず今回のバトルはここまでです！　ネズミ、締めよろしく！

ユウキ

「なぜ俺がーまあいい。今回のバトルはここまでだ。次回も急いで書かせるから楽しみにしていてくれ」

うおい！（汗）

一周年記念バトル大会! Round 3!

さあどんどんいきますよ!

ユウキ

「何回続くんだこれ」

これ入れてあと三回ぐらい? とりあえずくじをと——まずシ
ヨウ!

シヨウ

「……………」

そして——おっ*s n o w w h i t e*さんの作品からリナ!

リナ

「わたしか〜!」

まさかのトレーナー同士の対決になりましたね。えっとバトルフ
イールドは——

ユウキ

「そういえば直ったのか?」

ああ森ステージね。実は直らなくて結局荒野ステージとしました

リュウタ

「なんだそりゃ」

まあとにかくいこうか。。えっと今回のバトルフィールドは岩場ですね。じゃあ審判

ペラップ

「ではショウ対リナのバトル開始！」

ショウ

「行けヒコザル」

ヒコザル

『ヒッコー！』

リナ

「お願いミズゴロウ！」

ミズゴロウ

『ガヤガヤー！』

さあヒコザル対ミズゴロウのバトルだ！
相性はミズゴロウの方が有利だがヒコザルはどうでるんだ！？

リナ

「ミズゴロウ、水鉄砲！」

ミズゴロウ

『ガヤー！』

凄い勢いで水流がヒコザルに襲い掛かる！
ズイぞ！
これが直撃したらマ

シヨウ

「かわして火炎車」

ヒコザル

『ヒコッ!』

ヒコザル速い! 素早く回避すると炎を纏いながらミズゴロウに突撃していく! てか炎熱い!

リナ

「水鉄砲で追撃して!」

シヨウ

「それぐらい読んでいた。中断して穴を掘る」

なんと水鉄砲に反応して穴を掘るで回避! さあヒコザルはどこから出てくる!

リナ

「どこっ!?!」

シヨウ

「火炎放射」

ヒコザル

『ヒッコー!』

ミズゴロウ

『ギャッ!?!』

なんと地面から火炎放射だ！ ミズゴロウに直撃したがダメージはどうだ！？

リナ

「体制を整えて水鉄砲！」

ミズゴロウ

『ギャー！』

どうやらあまりダメージはないようだ！ やはり水に炎はあまり効果はないようだ！

シヨウ

「もう一度穴を掘る」

ヒコザル

『ヒコッ！』

さあ次はどこから攻撃するんだ！？ それともミズゴロウがなにか対策を打つのか！？

リナ

「どうしよう……そっか！ ミズゴロウ！ あの穴に水鉄砲！！」

ミズゴロウ

『ギャー！』

シヨウ

「なにっ？」

なんと穴に向かって水鉄砲を放ったぞ！　これは一体どうなるんだ！？

ヒコザル

『ヒコー！』

ショウ

「ちっ！」

水流に押されてヒコザルは地面からたたき出されてしまったぞ！
しかもかなりのダメージだ！

ショウ

「俺は諦めない。火炎放射！」

ヒコザル

『ヒッ……コー！！』

凄い炎だぞ！　先程の火炎放射より数倍も威力が高そうだ！　てか熱いって！

リナ

「ミズゴロウ！　水鉄砲で炎を消して！」

ミズゴロウ

『ガヤガヤガー！！』

ヒコザル

『ヒコー！！』

水鉄砲と火炎放射のぶつかり合いだ！　だが火炎放射のほうが優勢だ！

ヒコザル

『ヒコー！』

ミズゴロウ

『ギャッ！？』

リナ

「ミズゴロウ！？」

火炎放射がミズゴロウに直撃したあ！　だがまだ立っているぞ！

リナ

「諦めないよ！　ミズゴロウ！　水鉄砲！」

シヨウ

「かわして火炎車」

さあ水鉄砲を放つがヒコザルは回避しながら火炎車を使用したぞ！　これできたか！？

リナ

「待ってたよ！　泥かけ！」

ミズゴロウ

『ギャッ！』

ヒコザル

『ヒコッ!?!』

なんと泥かけだあ！ ヒコザルの目に泥が直撃したぞ！ いきなり視覚を奪われて悶えているぞ！ これはチャンスだ！

リナ

「水鉄砲！」

ミズゴロウ

『ギャー!』

シヨウ

「ヒコザル！」

ヒコザルにミズゴロウの水鉄砲が命中——あれ？ ヒコザルがいないぞ！

ヒコザル

『ヒコー!』

なんとトレーナーの命令無しで穴を掘るをしていたぞ！ どれだけ負けず嫌いなんだ!!

シヨウ

「あの至近距離では火炎放射も火炎車も間に合わない……引つかくだ！」

リナ

「ミズゴロウ！ 体当たり！」

ここで純粋なパワー勝負だ！ さあどちらが競り勝つんだ！

ヒコザル

『ヒッ……コー！』

ミズゴロウ

『ガッ……ヤー！』

相殺だあ！ お互い吹き飛ばされて岩にたたき付けられたぞ！

リナ

「ミズゴロウ！」

シヨウ

「ヒコザル！」

ペラップ

「ヒコザル、ミズゴロウ共に戦闘不能！ このバトル引き分け！」

バトル終了お！！ このバトルは引き分けに終わりました！ い
やー凄いバトルでしたね

リナ

「お疲れミズゴロウ、ゆっくり休んで」

シヨウ

「ご苦労だったヒコザル」

また凄いバトルだったね

リナ

「そうだね！」

エイト

「いいバトルだったね」

リナ

「やっぱり勝ちたかったよ〜！」

ショウ

「……正直危なかった」

リュウタ

「珍しいリアクション（笑）」

では次のバトルにいきましょう！
くじくじ——えっとまずはクロ！

クロ

「おれっちすか！」

えっと相手は——チジルさんの作品からピカ！

ピカ

「私ね！」

そういえばそこベレー帽はとらなくて大丈夫？

ピカ

「これないと落ち着かないのよ」

なら大丈夫だね。バトルフィールドはと——おっ荒野だね。じゃあペラップ！

ペラップ

「ではクロ対ピカのバトル開始！」

クロ

「シャドーボールっす！」

ピカ

「なら十万ボルト！」

おっと初っ端からシャドーボールと十万ボルトのぶつかり合いだ！
これは最初から熱い戦いだ！

クロ

「電光石火っす！」

ピカ

「電光石火には電光石火よ！」

なんと電光石火を電光石火で回避したぞ！
先制技を先制技で制すやり方もあるんですね

クロ

「しまったっす！」

ピカ

「アイアンテール！」

アイアンテールがクロに直撃したぞ！　ダメージはあるのか！？

クロ

「くっ……まだまだっす！　突進っす！」

ピカ

「当たらないわよ！　電光石火！」

またしても電光石火で回避に成功！　これでは先程の二の舞だ！

ピカ

「アイアンテール！」

クロ

「お返しっす！　電光石火からシャドーボール！」

なんと先程のピカのように電光石火で回避したぞ！　なかなかやりますね

ピカ

「キャア！」

シャドーボールがピカに直撃したぞ！　なかなかの威力だ！

クロ

「もう一発いくっす！　シャドーボール！」

もう一つシャドーボールだ！　これを喰らったらさすがにマズイ

ぞ！

ピカ

「十万ボルト！」

十万ボルトでシャドーボールを相殺したぞ！ 十万ボルトの威力も高いぞ！

クロ

「電光石火っす！」

ピカ

「こっちも電光石火よ！」

電光石火がぶつかり合っているぞ！ パワーは互角なのか！？

クロ

「これは……マズイっす！」

パワー勝負を嫌ったかクロが離れたぞ！ だがクロの様子がなにかおかしいぞ？

ピカ

「まさか発動するとはね……ラッキーね！」

クロ

「体が……痺れるっす……」

静電気が発動したのでしょうか？ クロの体が痺れたぞ！

サメハダー

「静電気？」

打撃をしてきた相手をたまに麻痺させる特性だよ

クロ

「こんなの気合いでどうにかするっす！」

ピカ

「どうにか出来る……かし……え？」

おっと、ピカの体がふらついているぞ？ しかも顔色が悪いぞ？

クロ

「毒々が効いたっすね！ さっき電光石火でぶつかった時にこっそり使ったんすよ！」

なんとここでクロの頭脳が冴えたぞ！ これはピカマズイか！？

ピカ

「どうってことないわ！ 電光石火！」

電光石火で奇襲をかける！ さあまた始まるか！ というよりピカはどこに？

ピカ

「アイアンテール！」

上空だあ！ 上にジャンプしていたぞ！ これが決まったらひとたまりもないぞ！

クロ

「うおおお！ とっておきっす！」

なんととっておき！ これは威力絶大だぞ！

ピカ

「しまっ！ キャアア！！」

直撃してしまっただあ！ このダメージは深刻そうだ！

デルタ

「しかし凄い威力だな……」

ルーク

「適応力じゃないのか？」

なるほど、だからあれほどのダメージなんですね

ピカ

「うっ……」

既にフラフラだがなんとか立ち上がった！ さあ挽回できるのか
！？

ピカ

「あの雲……いけるわね。雷！」

ここで電気タイプ最強技の一つの雷だああ！！ これは決まった
かああ！？

クロ

「まだ動けるっす!! 電光石火!!」

雷を回避してピカに接近する! これは決まったか!?

ピカ

「諦めない……わ! アイアンテール!」

クロ

「とっておきっす!!」

凄いぶつかり合いだ! これはどちらが勝つんだ!?

クロ

「うおおおお!!」

ピカ

「うっ……キャアア!!」

ピカが吹き飛ばされた!? 岩に衝突したが大丈夫なのかあ!?

ピカ

「……………」

ペラッ

「ピカ戦闘不能! クロの勝ち!」

クロ

「やったっすー!! ……」

って勝利の雄叫びのすぐに倒れた!？ レオナ早く!!

リサ

「二人とも大丈夫かなあ……」

レオナがいるから大丈夫だよ、きっと

シノビ

「見ても勉強になるでござるな」

メット

「もう大丈夫なんスか？」

シノビ

「レオナ殿のおかげでもう大丈夫でござる」

では次のバトルにいきましょう！ くじはっ——おっ？ まず
ソウル！

ソウル

「む？ 自分か？」

相手は——クローネさんの作品からグラン！

グラン

「……………」

バトルフィールド設置っ——こんどは荒野だね

ペラップ

「ではソウル対グランのバトル開始！」

ソウル

「こちらからいかせてもらう。火炎放射！」

グラン

「十万ボルト」

最初からパワー勝負だ！ 十万ボルトと火炎放射のぶつかり合い、爆発が起こったあ！ しかもこの大会のなかで一番の爆発だぞ！

ソウル

「遠距離では拉致があかないと判断。フレアドライブ！」

炎を纏いながらソウルは凄いスピードでグランに突撃していくぞ！

グラン

「ワールドボルト」

グランも雷を纏いながらソウルに突撃していくぞ！ またしてもパワー勝負だ！

ソウル

「ぐっ！」

グラン

「フン」

ソウルが押し負けた！ 純粹なパワーはグランの方が上のようにだ

ぞ！

ソウル

「なら少し時間を稼ぐとしよう。煙幕」

黒い煙幕が発生したぞ！ この煙りのせいでソウルの姿が確認出来なくなったぞ！

グラン

「無駄だ。雷の牙」

ソウル

「ぐっ！」

なんと当たった！ 煙幕で姿を確認できないはずなのに一体なぜ！？

ソウル

「くっ……レントラーが持つ透視能力か……」

グラン

「……そうだ」

ソウル

「だが……甘い」

グラン

「っ！？」

なにぃ！？ ソウルが光の粒子となって消えたぞ！ 一体今度は

どうなっているんだ!?

グラン

「身代わり……くっこの俺がそのような小細工に……」

ソウル

「何事も使い用だ。ブラストバーン!」

なんとソウルは空中にいたぞ! 空中から火球を放ったぞ!

グラン

「ただでは喰らうつもりはない。十万ボルト!」

なんとか対向するがブラストバーンの威力の方が高いか!? だんだん十万ボルトが押されてきたぞ!

グラン

「ぐはっ!」

ブラストバーンがグランに命中したぞお!! これは大ダメージになったか!?

グラン

「ぐっ……」

なんと立ちました! あのブラストバーンを喰らって耐えるとは驚きです!

ソウル

「くっ……」

さあブラストバーンの反動でソウルの動きが止まったぞ！ 今がチャンスだ！

グラン

「充電」

ここで充電だ！ この状態なら安全に次の攻撃のパワーアップができるぞ！

グラン

「噛み砕く」

ソウルの腕に噛み付いたぞ！ これは痛そうだ！

グラン

「フンッ」

ソウルを上 to 投げ飛ばしたぞ！ 一気に勝負を決めるつもりだよだ！

グラン

「ワイルドボルト！」

充電した雷を活かしたワイルドボルトだぁ！ 雷が強いせいかグランが黄金に見えるぞ！

ソウル

「自分は諦めるつもりは毛頭無い！ フレアドライブ！」

ソウルも大技のフレアドライブだ！ 普通のフレアドライブよりエネルギーが高いぞ！ その証拠に炎が赤から青に変わっている！

グラン

「ぐっ！」

ソウル

「ぐはっ！」

あぁっと！ 二匹とも吹き飛ばされたぞ！ まだ戦えるのかっ！？

グラン

「……………」

ソウル

「ハア……ハア………」

ペラップ

「グラン戦闘不能！ この勝負ソウルの勝ち！」

決着うう！！ この激戦を勝ったのはソウルだぁ！！

レオナ

「仕事か」

頼むよ

ソウル

「済まないが……自分も限界だ………」

レオナ！ ソウルも頼むよ！

レオナ

「わかった」

では今回最後のバトルにいきましょう！
ではくじをと……リ
ユウタ！

リュウタ

「うっし！」

相手は……ノコタロウさんの作品からサメハダー！

サメハダー

「待ちくたびれたぜ！」

バトルフィールドは——また岩場か、多いな……ってかサメハダーはここでバトルできる？

サメハダー

「問題ねえぜ！」

なら始めましょう！ ペラップ！

ペラップ

「ではリュウタ対サメハダーのバトル開始！」

リュウタ

「いくぜブイゼル！」

ブイゼル
『ブーイ！』

お互い水タイプのバトルになったぞ！
どのようにバトルするのが楽しみです！

サメハダー
「こっちからいくぜ！
ハイドロポンプ！」

水タイプ最強の技の一つ、ハイドロポンプを初手に放ってきたぞ！
初っ端から攻撃的だぞ！

リュウタ
「しゃがんでかわせ！」

ブイゼル
『ブイッ！』

うまくしゃがんで回避に成功！
体が小さいのをうまく活用していますね

リュウタ
「アクアジェット！」

ブイゼル
『ブーイ！』

さあ水を纏いながらサメハダーに一直線だ！
サメハダーは一体どのように対処するのかあ！？

サメハダー

「へっ来やがれ！」

なんと少し下がるだけで避けも反撃もするそぶりがないぞ！
なにを狙っているんだ！？

リュウタ

「お望みどおりにしてやれブイゼル！」

さあブイゼルのアクアジェットがサメハダーに決まったぞ！
ダメージはどれくらい入ったか！？

ブイゼル

『ブッブイ！？』

リュウタ

「なに〜！？」

攻撃したはずのブイゼルがダメージを受けているぞ！ しかもサ
メハダーにはほとんどダメージがないのかケロッとしている！

シノビ

「特性の鮫肌でござるな」

なるほど〜それでブイゼルがダメージを受けたんですね。でも相
性がいいとはいえなぜサメハダーにダメージがほとんどないんだろ？

サメハダー

「今答えを見せてやるぜ！ ロケット頭突き！」

凄い勢いでブイゼルに頭突きを決めたぞ！ ブイゼルは岩にたたき付けられてしまったがダメージはどれくらいでしようか！？

ブイゼル

『ブイ……』

フラフラしながらも立ち上がったぞ！ だがこれはピンチだぞ！

リュウタ

「くそっ！ 一か八かだ！ 冷凍ビーム！」

ブイゼル

『ブーイ！！』

リュウタ

「よっしゃ！ 出た！」

凍てつく冷気がサメハダーに向かっていくぞ！ だが単調ではないか！？

サメハダー

「ハイドロポンプ！」

凄まじい激流が凍てつく冷気にぶつかったあ！ ハイドロポンプは凍りついてしまったが冷凍ビームは防げたぞ！

リュウタ

「アクア——」

サメハダー

「遅いぜ！ 地震！」

ブイゼル

『ブイ！？』

思い切り地面を揺らしたぞ！ 地面の揺れでブイゼルは転んでしまったぞ！

サメハダー

「終わりだぜ！ アクアジェット！」

ここでアクアジェットだあ！ もう立っているのがやっとのブイゼルに容赦なく襲い掛かるう！ これは万事休すか！？

リュウタ

「ブイゼル！ しっかりしろ！ ソニックブーム！」

サメハダー

「遅い！」

サメハダーのアクアジェットが決まったああ！！ ブイゼル目を回しているぞ！

ペラップ

「ブイゼル戦闘不能！ サメハダーの勝ち！」

このバトルサメハダーの勝利です！ また凄いバトルでしたね

では今回のバトル大会はここまでです。次回はなるべく早く更新

したいと思います

一周年記念バトル大会! Round 4!

ではどんどんいきましよう! ではくじをと……まずチサ!

チサ

「は〜い♪」

相手は……Gさんの作品からメット!

メット

「わかったす!」

このバトルはどっちが勝つのでしょうか? ではバトルフィールドはっと……おっ岩場か。じゃペラップ!

ペラップ

「ではチサ対メットのバトル開始!」

チサ

「いくよー! ピヨピヨパンチ!」

オープニングはチサのピヨピヨパンチだ! いきなりメットの頭を捕らえたぞ!

チサ

「いっ……」

ん?

チサ

「ったーい！！ メット君の頭硬いー！！」

まさか攻撃したチサの方がダメージを受けているぞ！ こんなこともあるんですね

チサ

「なら冷凍ビーム！」

メット

「危ないっす！」

ギリギリ回避に成功したぞ！ あれが当たったらかなりマズイぞ！

メット

「こっちからいくっす！ 骨棍棒！」

さあ手に持っている骨で攻撃しようとしているぞ！ どう対処するんだ！？

チサ

「跳びはねる！」

自慢の脚力で高くジャンプしたぞ！ これではメットの攻撃は届かないぞ！

メット

「なら骨ブーメランっす！」

おっと、メットが自分の骨を投げつけたぞ！ 自らの武器を投げ

るとは予想外です！

チサ

「当たらないよー！」

空中で体制を変えて骨を避けたぞ！　これはなかなか器用ですね

チサ

「いくよー……キャア！」

なんと！？　投げ出した骨がブーメランのように帰ってきたぞ！

チサの後頭部に当たったが大丈夫なのか！？

チサ

「痛い……」

地面に着地しながら頭を押さえているぞ！　涙目になってるが大

丈夫なのでしょうか？

チサ

「不覚を取ったけど次はそうはいかないよー！　ドレインパンチ！」

相手の体力を吸収するパンチがメットに当たったぞ！　これはどれくらいのダメージが入ったのでしょうか？

メット

「ならこっちも容赦しないっす！　怒り！」

ここで怒りが発動だぁ！　メットのラッシュが始まるのでしょうか！？

メット

「そりゃっ！」

チサ

「キャッ！」

チサの体を掴むと上空に投げ出したぞ！ 更に追撃するのか！？

メット

「頭突きっす！」

チサ

「キャア！！！」

チサが地面にたたき付けられたぞ！ メットが怒りを発動させたからか、かなり攻撃的になってますね

チサ

「メット君凄いいねー……でも私だって負けないよ！ シャドーボール！」

漆黒の球体を作り出したぞ！ そのままメットに向かっていくが、攻撃の仕方が単調じゃないか！？

メット

「骨棍棒っす！」

骨をバットののように振ってシャドーボールを打ち消したぞ！ これは予想外ですね

メット

「骨ブーメランっす！」

チサ

「おっと！」

しゃがんで骨ブーメランを回避したぞ！　だがまたブーメランのように帰ってくるぞ！

チサ

「うわっ！」

やはりブーメランのように帰ってきたぞ！　まさかの無策だったのか！？

チサ

「な～んてね♪」

おっと！？　跳びはねるで跳び上がったぞ！　しかもメットの近く……まさか！

メット

「わっ！」

なんとチサ自信が目隠しになって骨ブーメランを見えなくし、帰ってきたブーメランがメットに直撃したぞ！　これは驚きだ！

メット

「やるっすね！　骨棍棒！」

チサ

「ピヨピヨパンチ！」

ピヨピヨパンチと骨棍棒のぶつかり合いだ！　これはどちらが勝つんだ！？

メット

「うっ！」

チサ

「チャンス！」

右耳を使っていたが更に左耳を使ったぞ！　ピヨピヨパンチはメットに当たったがダメージはどれくらいだ？

メット

「……………」

な、なんだ？　メットがフラフラしているぞ？　もしかしてピヨピヨパンチの追加効果で混乱してしまったのか？

チサ

「冷凍ビーム！」

チサの冷凍ビームが命中したぞ！！　これは決まったか！？

メット

「……………」

ペラップ

「メット戦闘不能！　チサの勝ち！」

決着！　このバトルはチサの勝ちです！

ジン

「チサ、頭にこぶが出来てますよ？」

チサ

「え、ホントに？　痛いはずだよ……」

レオナに治療してもらいなよ

では次のバトルにいきましょう！　まず——おっ？　ミリア！

ミリア

「えっ？」

相手は——プラネットさんの作品からシギ！

シギ

「わかったよ！」

さてバトルフィールドは……岩場みたいですね。ではペラップ！

ペラップ

「ではミリア対シギのバトル開始！」

ミリア

「竜の波導！」

オープニングアタックはミリアの竜の波導だ！ まっすぐシギに向かっていくぞ！

シギ

「エナジーボール！」

シギのエナジーボールが竜の波導にぶつかり、相殺することに成功したぞ！ お互い凄いパワーだ！

ミリア

「ドラゴンクロー！」

遠距離は厳しいと考えたかドラゴンクローで攻撃してきたぞ！ さあシギはどうでるんだ！？

シギ

「僕だって！ 突進！」

ここで純粋なパワー勝負になったぞ！ 一体どちらが競り勝つんだ！？

ミリア

「キャッ！」

シギ

「うわっ！」

お互い吹き飛ばされたぞ！ パワーは互角のようだぞ！

シギ

「なら毒の粉！」

シギの背中の種から毒の粉が広範囲に発生したぞ！　これを吸い込んだらマズイぞ！

ミリア

「神秘の守り！」

うまい！　ここで神秘の守りです！　これで毒の粉などの異常状態を防ぐことができますね

シギ

「なら戦術を変えないとね。ヘドロ爆弾！」

シギのヘドロ爆弾が飛んでいくぞ！　これはかなり威力が高そうだ！

ミリア

「サイコキネシス！」

サイコキネシスでヘドロ爆弾の軌道を変えたぞ！　それがうまくいったか、ヘドロ爆弾が当たることはなかったぞ！

シギ

「遠距離もダメならこうだ！　影分身！」

影分身を使いシギがたくさん増えたぞ！　どれが本物なんだ！？

シギ

「葉っぱカッター！」

分身のシギ達も含めたシギが一気に葉っぱカッターをしてきたぞ！
一体どれが本物なんだ！？

ミリア

「キャア！」

なにも出来ずに葉っぱカッターが命中したぞ！
これは防戦一方か！？

シギ

「エナジーボール！」

ミリア

「やらせない……！」

おっと、ミリアが上空に上がったぞ？
だがどんどん分身達やシギから発生するエナジーボールが飛んでくるぞ！

ミリア

「竜の波導！」

なんと竜の波導を地面に撃ったぞ！
そのエネルギーで爆発が発生したあ！
これはシギは大丈夫なのか！？

シギ

「痛た……今のはビックリしたよ」

どうやら無事のようなだ！
あまりダメージもないようだが、影分

身は消えてしまったぞ！

ミリア

「えいっ！」

シギ

「うわっ！」

なっミリアが光だしたぞ！　　ってあれ？　　ミリアの姿が見当たらないぞ？

シギ

「どこにいったんだ？」

ミリア

「ドラゴンクロー！」

なんと！　ミリアが突然シギの後ろから現れてドラゴンクローを決めたぞ！　　そうか、ラティアスが持つ姿を消す能力を使ったんですね

ミリア

「えいっ！」

また姿を消したぞ！　　これを破らないかぎりシギに勝機はないぞ！

シギ

「ならフラッシュ！」

ミリア

「キャッ！」

うわっ！ シギの体から眩しい光が発生したぞ！ その眩しさで
ミリアが怯んで姿が見えるようになったぞ！

シギ

「エナジーボール！」

ミリア

「竜の波導！」

二つの技がぶつかり合い相殺したぞ！ これでは先程の二の舞だ！

ミリア

「サイコキネシス！」

シギ

「うわああ！」

サイコキネシスでシギに精神攻撃を仕掛けたぞ！ これは苦しい
か！

シギ

「僕は負けない！ ウッドパワー解放！」

ミリア

「キャア！」

なんと自力でサイコキネシスから抜け出したぞ！ 更にウッドパ
ワー解放だ！ これはミリアピンチか！？

ユウキ

「ウッドパワーとかいうのをお前は知ってるのか？」

いや、詳しくは知らない（笑）

シギ

「見てればわかるよ！ エナジーボール！」

うわっ！ 先程のエナジーボールより威力が上がっているぞ！
ウッドパワーの力なのか！？

ミリア

「竜の波導！」

竜の波導を撃ったが簡単に突き破られてしまったぞ！ なんてパワーだ！

ミリア

「当たらないよ……！」

竜の波導を当てたおかげかエナジーボールの軌道がずれたぞ！
ミリアも回避に成功したぞ！

ミリア

「これで決める……！ 流星群！」

さあ大技の流星群だ！ これが決まったらマズイぞ！

シギ

「冷静に対処すれば！ エナジーボール！」

なんと、降り注ぐ流星群をかわし、かわしきれないのはエナジーボールで相殺しながらミリアに接近していくぞ！　なんてスピードだ！

シギ

「ヘドロ爆弾！」

ミリア

「キャアアア！！」

至近距離でヘドロ爆弾が決まったぞ！　これはどうだ！？

ミリア

「……………」

ペラップ

「ミリア戦闘不能！　このバトルシギの勝ち！」

ミリア倒れた！　シギのウッドパワー強し！

シギ

「疲れたよ……………」

どうやら疲労は半端ないようですね

では次のバトルにいきましょう！　まず……………レナ！

レナ

「わかったわ！」

相手は……桜さんの作品からアチャモ！

アチャモ

「うん！」

ではバトルフィールドをと……おっ草原ですね。ではペラップ！

ペラップ

「ではレナ対アチャモのバトル開始！」

レナ

「お願いエイパム！」

エイパム

『ウキー！』

アチャモ

「エイパムかく初めて見るな」

レナはエイパムを選択したぞ！ 一体どんなバトルをするのでしようか？

レナ

「引っかくよ！」

エイパム

『ウキー！』

アチャモ

「こっちも引っかく！」

お互いに引っかくでのスタートだ！ どちらの方がパワーが上なのでしょうか！？

エイパム

『ウキッ！』

アチャモ

「キャア！」

どうやらパワーは互角のようです！ これは至近距離ではダメかもしれないですね

レナ

「ならスピードスター！」

エイパム

『ウキー！』

アチャモ

「火の粉！」

今度は火の粉とスピードスターのぶつかり合いだ！ 今度はどちらが勝つんだ！？

アチャモ

「キャア！」

スピードスターが打ち勝ったぞ！ 遠距離はエイパムに部がある

ようですね！

アチャモ

「やっぱり接近戦だね！ 突く！」

アチャモがエイパムに近づいて突っつきまくる！ これは地味に痛そうですね

レナ

「離れて影分身！」

エイパム

『エパツ！ パツ！ パツ！』

先程のシギのようにエイパムがたくさんに増えたぞ！ どれが本物だ！？

アチャモ

「さっきのバトルみたいになんとか……そうだ！ 火の粉！」

なんだ？ アチャモがクルクル回りながら火の粉をしているぞ！
っと！ 火の粉が辺りに拡散して分身を消していくぞ！

レナ

「あれじゃ当たっちゃうわね……エイパム、ジャンプしてかわして！」

エイパム

『ウキッ！』

エイパムジャンプして火の粉を回避したぞ！　だが分身はもう残ってないぞ！

アチャモ

「火の粉！」

エイパム

『ウキー！』

レナ

「エイパム！」

空中で身動きが取れないエイパムに火の粉が命中したぞ！　体制を崩して落下してしまったがダメージのほうはどうでしょうか！？

レナ

「大丈夫！？」

エイパム

『ウキー……』

少しフラフラしながらなんとか立ち上がったぞ！　だが大丈夫なのだろうか？

アチャモ

「引っかく！」

更にアチャモの引っかくがヒットしてしまったぞ！　これは決まったか！？

レナ

「頑張ってエイパム！ カウンター！」

エイパム

『ウッキー！』

アチャモ

「うわっ！」

決死のカウンターがヒットしたぞ！ これはかなりのダメージになったぞ！

レナ

「乱れ引つかき！」

エイパムが最後の一撃と言わんばかりに接近していくぞ！ これは決まったか！？

アチャモ

「砂かけ！」

エイパム

『ウッキー！』

アチャモの砂かけがエイパムに直撃したぞ！ 突然視覚を奪われてエイパムは悶えているぞ！

アチャモ

「火の粉！」

エイパム

『ウキー！』

レナ

「エイパム！」

アチャモの火の粉が命中したあ！　これは決まったか！？

エイパム

『……………』

ペラッ

「エイパム戦闘不能！　このバトルアチャモの勝ち！」

決つ着！　このバトルはアチャモの勝ちです！

アチャモ

「やったよキセキ！　ナイト！」

キセキ

「やったね！」

ナイト

「凄かったぜ！」

レナ

「お疲れ様エイパム。いやあ完敗ね」

なにか学べたのかな？

では今回のラストバトルにいきましょう！　まず……レイド！

レイド

「わかりましたわ」

相手は……エメラルドさんの作品からシアン！

シアン

「よろしくお願いします」

バトルフィールドは……また草原？　まあいいや。ペラップ！

ペラップ

「ではレイド対ペラップのバトル開始！」

レイド

「いきますわよ！　エナジーボール！」

シアン

「当たりませんよ！」

さあオープニングはレイドのエナジーボールからでしたがシアンによけられてしまったぞ！　どちらがリズムを取れるのでしょうか？

シアン

「電光石火からはっけい！」

レイド

「キャア！」

なんと！ 一瞬で接近するとすぐにはつけないを決めたぞ！
は早々にかんりのダメージになってしまったか！？

レイド

「ならマジカルリーフ！」

シアン

「くっ！」

必中技のマジカルリーフがシアンを捕らえたぞ！
こちらのダメージが入ったか！？

レイド

「最初から飛ばしますわよ！ エナジーソード！」

さあエナジーボールを形態変化させて剣を作り出したぞ！
ここからレイドの本領発揮か！？

シアン

「ならこちらも！ シャドークロー！」

レイド

「いきますわよ！」

さあお互いに邪魔をせずに接近したぞ！
ここから接近戦になる
んでしょうか！？

レイド

「はああああ！！！」

シアン

「うおおおお！！！」

凄い接近戦だ！ レイドが攻めるとシアンが守り、シアンが攻めるとレイドが守る！ 凄い攻防だが、両手が使えるシアンが有利か！？

レイド

「なら木の葉乱舞！」

シアン

「くっ！」

まるで踊るかのようにレイドがシアンを攻撃するぞ！ これは防ぎきるのはキツイか！？

シアン

「うわっ！」

防ぎきれずに木の葉乱舞が決まったぞ！ そのまま何度も攻撃していくぞ！ 全て浴びたらマズイか！？

シアン

「くっ！」

さすがに危ないと思ったかシアンが距離をとったぞ！ さあここからどうでるんだ！？

シアン

「とっておきです！ 暗黒星雲！」

レイド

「なっなんですよ!？」

なっなんだあ!？ シアンが取り出した銀の針が暗黒に輝いているぞ!

シアン

「それっ!」

暗黒になった銀の針を投げつけたぞ! これはどれほどの威力があるのでしょうか!?

レイド

「当たるわけにはいきませんわ! マジカルリーフ!」

レイドがマジカルリーフで対抗するが、暗黒星雲は簡単にマジカルリーフを突き抜けてしまったぞ!

レイド

「キャア!」

暗黒星雲がレイドに直撃したあ! かなりのダメージになってしまったぞ!

シアン

「電光石火!」

更に追撃で電光石火を使って接近したぞ! ダメージが多いのかレイドは反応しきれてないぞ!

シアン

「瓦割り！」

瓦割りがレイドに命中したぞ！　これは決まったか！？

レイド

「……諦めませんわ！　ヘドロ爆弾！」

シアン

「うわっ！」

「ボロボロになりながらもヘドロ爆弾を放ったぞ！　不意打ち気味だったからか、シアンに直撃したぞ！」

シアン

「やりますね……」

レイド

「諦めないですわ！　エナジーソード！」

エナジーソードを作り出してシアンに突っ込むぞ！　だがこれでは的になってしまわないか！？

シアン

「暗黒星雲！」

またしても暗黒の針がレイドを襲う！　これは対処出来るのか！？

レイド

「真一文字！」

なんだ！？ エナジーソードで暗黒星雲を一刀両断したぞ！
だが針はまだ残っているぞ！

レイド

「正面が開けば突破口はありますわ！」

さあレイドが突っ込んでいくぞ！ またしても接近戦になるか！？

シアン

「今なら……！」

シアンも接近戦の体制になったぞ！ さあまたあのバトルが見れるのか！？

レイド

「なっ！？」

なんとシアンがレイドが切り付けた瞬間に懷に潜り込んだぞ！
これをあらかじめ読んでいたのか！？

シアン

「はっけい！」

レイド

「キャアアア！」

シアンのはっけいが決まったぞ！ これは決まったか！？

レイド

「……………」

ペラップ

「レイド戦闘不能！ このバトルシアンの勝ち！」

レイド力尽きたぁ！ このバトルはシアンの勝ちです！

シアン

「危なかったですね……………」

いやゝ最後は見事の一言に尽きるね

今回のバトルはここまでです。次回もお楽しみに！

一周年記念バトル大会! Final Round!

さあこのバトル大会もいよいよ今回がラストです!

ユウキ

「なに連続投稿しているんだ」

いやゝあまり長い間他の方のキャラをお借りするわけにもいかな
いでしょ? というわけでガンガンいきましよう!

ユウキ

「だが残ったゲストは強いやつばかりだぞ」

うゝ確かに……こっちはほとんど出し尽くしちゃったし……

エイト

「そんなに僕は強くないよ?」

レナ

「謙遜しないの」

キセキ

「わたしだって……」

アチャモ

「キセキは強いよ!」

キセキ

「アチャモってば……」

どうしょ？

ユウキ

「やったやつもまたやらせたらどうだ？」

それお前がやりたいだけだろ？

ユウキ

「さあな」

えっとそれでいいでしょうか？

サルコ

「俺は構わないぜ！」

デルタ

「いいんじゃないか？」

ではお言葉に甘えて……ではくじを引きましょう！ えっと……
まずリュウタ！

リュウタ

「うっし！ 次こそ勝つぜ！」

相手は……おっ＊snow white＊さんの作品からエイト！

エイト

「リュウタとか。レナちゃんとはやったことあるけどリュウタとは初めてだな……」

リュウタ

「負けねーぜ！」

ではバトルフィールドはと……おっこのフィールドは初めてだ！

エイト

「これは……」

リュウタ

「フツのバトルフィールドだな」

たまにノーマルなフィールドが出るんだよ。今回の大会で初めて出たよ

リュウタ

「芸がねーやつ」

……ペラップ、あとよろしく↑隅でウジウジしている

ユウキ

「……………（呆）」

ペラップ

「ではリュウタ対エイトのバトル開始！」

エイト

「頼むよヒノアラシ！」

ヒノアラシ

『ヒノー！』

リュウタ

「やっぱヒノアラシか！　ならこっちは！　頼むヒトカゲ！」

ヒトカゲ

『カゲー！』

ん？　ブイゼルじゃなくてヒトカゲ？　相性ならブイゼルの方が有利なのに……

リュウタ

「相性で勝った、なんて言われたくねーからな！　エイトとは本気で戦いてえからな！」

エイト

「僕は相性なんか関係ないよ。本気で戦うまで！」

お互い凄い気合いですね！　これは凄いバトルになりそうだ！

リュウタ

「ならこっちからいくぜ！　火の粉だ！」

エイト

「こっちも火の粉だ！」

さあお互い火の粉で攻撃したぞ！　どちらの方が火力は高いんだ！？

ヒトカゲ

『カゲッ!』

ヒノアラシ

『ヒノッ!』

おっと二つの技が同時に消し飛んだぞ! 遠距離勝負は互角といったところだ!

リュウタ

「なら接近戦だ! ヒトカゲ! 引っかくだ!」

ヒトカゲ

『カーゲー!』

ヒトカゲがダッシュでヒノアラシに接近していくぞ! なかなかのスピードだ!

エイト

「電光石火でかわすんだ!」

ヒノアラシ

『ヒノッ!』

ヒトカゲ

『カゲ!?』

凄いスピードだ! 電光石火でヒトカゲの後ろに回り込んだぞ!

エイト

「そのまま突っ込むんだ!」

さあスピードを保ったままヒトカゲに突進していくぞ！　これは避けられないか！？

リュウタ

「へっ！　避けるだけが全てじゃねえぜ！　ヒトカゲ！　受け止める！」

ヒトカゲ

『カゲッ！』

エイト

「えっ！？」

なんと受け止めたぞ！　ヒトカゲにダメージは無いとは言えないがなんとかヒノアラシをがっしりと捕まえたぞ！

リュウタ

「そこから火の粉だ！」

ヒトカゲ

『カーゲー！』

ヒノアラシ

『ヒノー！』

至近距離で火の粉が決まったあ！　相性が悪いとはいえこれはなかなかのダメージが入ったでしょう！

エイト

「相変わらず豪快なバトルだね……でも僕は負けないよ！　ヒノアラシ！　煙幕！」

ヒノアラシ

『ヒノー！』

ヒノアラシの背中から大量の黒い煙りが発生したぞ！　そのまま煙りが完全にフィールドを覆ってしまったぞ！

サルコ

「あれだとお互いにわからないんじゃないか？」

確かに。一体エイトはなにを狙っているんだろ？

リュウタ

「ヒトカゲ！　周りに気をつけろよ！」

ヒトカゲ

『カゲッ！』

エイト

「よしっ、ヒノアラシ！　スピードスター！」

なるほど！　ここでスピードスターとは、さすがエイトですね！　確実にあたる技ならこの煙幕が不利になることはないですね

ヒトカゲ

『カゲー！』

リュウタ

「ちっ！ ジャンプして煙幕から脱出するんだ！」

なんとかしっぱを上手く使ってジャンプしたぞ！ 煙幕から脱出
成功したがどう攻め——ん？

エイト

「読んでいたよリュウタ！」

リュウタ

「なにいゝゝ！！？」

なんとお！ ヒノアラシも同じ様にジャンプして煙幕から脱出し、
ヒトカゲのすぐ近くまで近づいてきていたぞ！

エイト

「そのまま火炎車！」

ヒノアラシ

『ヒノー！！！』

ヒトカゲ

『カゲー！！』

接近しながら火炎車だ！ 上空にジャンプしたのにまたしても煙
幕のなかに叩き戻されたぞ！

エイト

「決めるよ！ 火の粉だ！」

ヒノアラシ

『ヒノー！』

上空から火の粉だ！　だが煙幕の中のヒトカゲに当たるのか！？

レナ

「これって……」

リュウタ

「しまった！」

なんと火の粉が煙幕に着火して大爆発が発生したぞ！　エイトはこれを狙っていたのか！？

リュウタ

「ヒトカゲ！！」

ヒトカゲ

『……………』

ペラップ

「ヒトカゲ戦闘不能！　このバトルエイトの勝ち！」

決つ着！！　このバトルを制したのはエイトとヒノアラシだ！

リュウタ

「くっそろまた負けちゃった〜！　とりあえずヒトカゲ、ゆっくり休んでくれ」

エイト

「ヒノアラシ、お疲れ様」

リナ

「やったねエイト！」

リュウタ

「まさかあそこまで考えていたとはよ」

さすがエイトだね

では次のバトルにいきましょう！　くじをと……まずチサ！

チサ

「また私？」

みたいだよ。相手は……桜さんの作品からキセキ！

キセキ

「私か……」

ナイト

「頑張れよ！」

キセキ

「任せて！」

ではバトルフィールドは……また草原か。やたら草原が多いな……まあいいや。ペラップ！

ペラップ

「ではチサ対キセキのバトル開始！」

チサ

「やるからには勝つよ！ ピヨピヨパンチ！」

さあ先制攻撃にピヨピヨパンチを選択したぞ！ キセキどうでる！？

キセキ

「葉っぱカッター！」

接近戦を嫌がったか、葉っぱカッターでチサに対抗したぞ！

チサ

「当たらないよー！」

軽快なフットワークで葉っぱカッターをかわしながらキセキに接近したぞ！ これは決まったか！

キセキ

「うわっ！」

少しバックステップをしてチサから距離を取ったぞ！ やはり接近戦はチサが有利と判断したのか！？

チサ

「逃がさないよー！」

逃がすつもりはないのか、チサはさらに追尾していくぞ！ これでは防戦一方だぞ！

キセキ

「なら……毒の粉！」

チサ

「キャッ！」

勢いよく突っ込んだせいで止まり切れなかったぞ！ 毒の粉をまともに受けてしまったぞ！ これはキセキが有利になるか！？

キセキ

「葉っぱカッター！」

キセキの葉っぱカッターがチサに命中したぞ！ 毒の効果もあつてかなりのダメージが入ったか！？

チサ

「こんなのなんともないんだからー！ 電光石火！」

毒に耐えながら電光石火でキセキにぶつかったぞ！ これはそれなりのダメージが入ったか！？

チサ

「冷凍ビーム！」

キセキ

「キャア！」

チサの冷凍ビームがキセキに直撃したぞ！ これはかなりのダメージになったか！？

チサ

「まだま……」

毒でフラフラしているぞ！　ここで更に追撃出来ないのはかなり痛いぞ！

キセキ

「今のうちに！　光合成！」

キセキの体が光だしたぞ！　しかも傷が治っていく！　これはチサが明らかに不利だぞ！

チサ

「なら……ドレインパンチ！」

キセキ

「それは貰うわけにはいかないよ！」

ジャンプしてドレインパンチを回避したぞ！　やはり回復されるのは避けたいようだ！

キセキ

「葉っぱカッター！」

チサ

「跳び跳ねる！」

葉っぱカッターをジャンプしながら回避したぞ！　相変わらず凄いい脚力だ！

チサ

「えーい！」

キセキ

「キャッ！」

キセキより上に跳んだチサはキセキを地面にたたき付けたぞ！
これはかなりのダメージになったか！？

チサ

「うっ……フラフラする……」

やはり毒が効いているのかチサの動きが少し変だぞ！ キセキに
毒のアドバンテージがありますね！

キセキ

「体当たり！」

チサ

「接近してきた……ドレインパンチ！」

キセキ

「しまっ！」

迂闊に近づいたのがアダになったか！？ キセキにドレインパン
チが命中したぞ！ あまりダメージはないようだがチサの体力が回
復したぞ！

チサ

「少し元気でたっ！ 冷凍ビーム！」

キセキ

「当たらないよ！」

攻撃が単調だったか！？ チサの冷凍ビームはキセキに簡単にか
わされてしまったぞ！

キセキ

「葉っぱカッター！」

チサ

「キャア！」

葉っぱカッターがもろにヒットしたあ！ これはさすがに致命傷
になってしまったか！？

チサ

「冷凍ビーム！」

なんとか反撃するがダメージがデカイのか全くキセキに当たらな
いぞ！ これはチャンスだ！

キセキ

「体当たり！！！」

キセキの体当たりがチサに命中したあ！ これは決まったか！？

チサ

「……………」

ペラップ

「チサ戦闘不能！ このバトルキセキの勝ち！」

チサ倒れたあ！！ このバトルの勝者はキセキに決まりました！

キセキ

「危なかったよ……」

あの毒の粉が勝負を決めたかな？

アチャモ

「やったねキセキ♪」

ナイト

「凄かったぜ！」

では次のバトルにいきましょう！ まずはっと……おっまたソウル！

ソウル

「自分か？ 二回もいいのだろうか？」

いや、まあいいんじゃない？ 残ってる二人はかなり強いし

サルコ

「ん？」

デルタ

「なんだ？」

ソウル

「これは心が躍る。どちらとも手合わせしたいものだ」

では対戦相手は——おっクローネさんの作品からサルコ!!

サルコ

「やっと俺か! 待ちくたびれたぜ!」

スタール

「負けんじゃねえぜ!」

サルコ

「任せとけて!」

ではバトルフィールドは——岩場ですね。ペラップ!

ペラップ

「ではソウル対サルコのバトル開始!」

ソウル

「フレアドライブ!」

サルコ

「こっちもフレアドライブだ!」

凄いぶつかり合いだ! 炎と炎、パワーとパワーの勝負! 始めから凄いバトルだぞ!

サルコ

「ちっパワーは互角か。ならマッハパンチ!」

ソウル

「ぐはっ！」

凄いスピードでソウルの腹部にパンチが当たったぞ！ その威力はソウルが悶絶していることが物語っています！

ソウル

「ただではやらせはしない！ ジャイロボール！」

回転しながらサルコに突撃していくぞ！ ジャイロボールは相手より遅いほど威力が上がるので、これはかなり威力がありそうです！

サルコ

「当たるか！」

軽快にジャンプしてジャイロボールを回避したぞ！ ソウルにしては安易な攻撃のような氣もしますが……

ソウル

「空中ならその素早さは意味を成さない。身代わり！」

なんと身代わりを三体作り出したぞ！ ここまで作ると体力の消費も大きいんじゃないでしょうか？

ソウル

「いくぞ！」

分身ごと空中のサルコに突撃していくぞ！ さすがのサルコも空中で四体のソウルを相手にするのはキツイか！？

サルコ

「舐めんなよ！ インファイト！」

な、なんと！ 襲い掛かるソウルの分身を次々と消していくぞ！
なんて身体能力だ！

ソウル

「だが完璧というのは存在しない。確実に隙は出来るものだ。気合
いパンチ」

サルコ

「しまっ！」

気合いパンチがサルコにヒットしたぞ！ これはかなりのダメー
ジになったか！？

ソウル

「いくら早くても限度がある。その一瞬の隙を付くのが自分の狙い
だ。更にインファイトの効果で防御能力も落ちている」

サルコ

「へっ！ 不意打ち気味に喰らったがたいしたことないぜ！」

ソウル

「そうでなくては困る。ではいくぞ。火炎放射！」

灼熱の業火がサルコに向かっていくぞ！ また森ステージじゃな
くてよかった……

サルコ

「火炎放射！」

サルコも火炎放射だ！　またしてもパワー勝負になったぞ！　つと爆発した！　遠距離は互角のようだ！

サルコ

「ならやっぱ接近戦だぜ！　マッハパンチ！」

またしても凄いスピードでソウルに接近していくぞ！　これはまた直撃したか！？

ソウル

「同じ手を喰うことはない。地震！」

サルコ

「うわっと！」

地面を揺らしてサルコの体制を崩したぞ！　これはソウルにチャンスが訪れたか！？

ソウル

「気合い玉！」

サルコ

「ぐあっ！」

ソウルの気合い玉がサルコに直撃したぞ！　これは威力絶大か！？

サルコ

「諦めるかぁ！ 火炎放射！」

ソウル

「こちらでも火炎放射だ！」

また火炎放射のぶつかり合いだ！ ってサルコの火炎放射がソウルの火炎放射を打ち破ったぞ！ なんて威力だ！

ソウル

「ぐあっ！」

火炎放射がソウルに命中したぞ！ 相性がいいがそれでもかなりの威力だ！

サルコ

「インファイト！」

ダメージでよろけるソウルに追い撃ちのごとくインファイトで攻めていくぞ！ これはかなりのダメージか！？

ソウル

「なるほど……猛火が発動したのか。だがそれは自分にも言えることだ。気合いパンチ！」

サルコ

「打撃で負けるわけにはいかないぜ！ マッハパンチ！」

拳と拳のバトルになったぞ！ お互い格闘技なので猛火は発動しないが、パワー勝負だと互角じゃないのか！？

サルコ

「ちっ！」

ソウル

「くっ！」

やはりパワーは互角だ！ お互いに押し戻されてしまったぞ！

サルコ

「これで終わりだ！ フレアドライブ！」

ソウル

「こちらもフレアドライブだ！」

また同じ技での勝負だ！ お互い猛火が発動しているのでかなりの威力になっているぞ！

サルコ

「へっ……」

なんだ？ サルコが笑っているぞ？ なにか作戦でもあるのか？

サルコ

「穴を掘る！」

ソウル

「なっ！？」

フレアドライブがぶつかり合う前に穴を掘るで地中に潜ったぞ！
これはソウルマズイか！？

ソウル

「甘い！ 地震——」

サルコ

「遅いぜ！」

ソウルが地震を打つ前に地面から出てきたぞ！ 地震を打つのを
読んでいたのでしょうか！？

サルコ

「フレアドライブ！」

ソウル

「ぐはっ！！！」

フレアドライブがヒットしたぞ！ 猛火が発動しているおかげで
凄まじい威力だ！

ソウル

「……………」

ペラップ

「ソウル戦闘不能！ このバトルサルコの勝ち！」

サルコ勝利！ このバトルはサルコの勝ちです！

ソウル

「ぐっ……………」

ちよつと、あまり無理するなよ

ソウル

「心配は無用だ……」

サルコ

「大丈夫か？」

ソウル

「大丈夫だ……完敗だ、サルコ」

サルコ

「こつちも危なかったぜ。またバトルしような！」

うむ、仲良くなるのはいいことだね

では、ついにラストバトルです！ 残ったのは、プラネットさんの作品から、ルカリオのデルタ！！

デルタ

「まさか最後とはな」

では相手をくじで――

ユウキ

「待て。俺にやらせてくれ」

おいおい、ルールを破るなよ……

ユウキ

「……………」

デルタ

「俺は構わないぜ。強いやつと戦いたい」

ユウキ

「俺もお前と戦いたい」

なんか戦闘モードになってるよ。ではラストバトル用の専用ステージは——これだ！

ユウキ

「……スタジアムか？」

デルタ

「観客もいるな……」

特別スタジアムです！　ラストバトル用に用意したのだ！

ユウキ

「某アニメの社長かお前は」

あああれ？　まあイメージはあんな感じでよろしくお願いします。
ではペラップ！

ペラップ

「こほん。ではラストバトル、ユウキ対デルタのバトル……開始！
」

ユウキ

「いくぞ！ 十万ボルト！」

デルタ

「波導弾！」

さあオープンニングは遠距離バトルになったぞ！ 一体どちらの技が強いのか！？

ユウキ

「ちっ」

デルタ

「くっ！」

お互いに打ち消しあったぞ！ どうやら技の威力は互角のようですね

ユウキ

「なら一気にいく！ アイアンテール！」

デルタ

「瓦割り！」

こんどはパワー勝負だ！ パワーはどちらが上なんだ！？

ユウキ

「ぐっ！」

デルタが打ち勝ったぞ！ パワーはやはりデルタの方が高いか！？

ユウキ

「なら……電撃波！」

おっと、電撃波を上空に打ち上げたぞ！

デルタ

「なんだ？」

ユウキ

「貫け！ マーシャル・ボルト！」

電撃波をアイアンテールで弾いたぞ！ そのままデルタに向かっていくぞ！

デルタ

「面白い技だな。ボーンラッシュ！」

デルタは骨の形をした武器を作り出し、電撃波を打ち消したぞ！
さすがどんな状況でも対処するのがうまいですね

デルタ

「いくぜ！」

ユウキ

「ならこちらもいかせてもらう！ 雷鳴剣！」

ボーンラッシュと雷鳴剣のガチンコバトルだ！ これは凄いこと
になりそうだ！

デルタ

「フンッ！」

ユウキ

「当たるか！」

デルタがユウキの顔面に攻撃しようとしたがユウキに阻まれたぞ！
なんとという攻防だ！

ユウキ

「ラチが開かないな……」

デルタ

「ならバトルを動かす！ サイコキネシス！」

なっなんと！？ サイコキネシスでデルタが空を飛んだぞ！ 器
用というよりもはや凄すぎるぞ！

デルタ

「波導弾！」

上空から波導弾を放ってきたぞ！ ネズミはどのように対処する
んだ！？

ユウキ

「フンッ！」

なんと雷鳴剣で波導弾を切り裂いたぞ！ こちらもこちらで凄
ぞ！

デルタ

「遠距離は無意識か。神速！」

なんだ？ デルタが消えたぞ！？ 一体どこに行ったのでしょうか！？

ユウキ

「ぐはっ！」

突然ネズミに突撃してきたぞ！ 神速を使ったとはいえかなりのスピードです！ だがダメージで雷鳴剣が消滅してしまったぞ！

デルタ

「悪の波導！」

ユウキ

「くっ守る！」

守るでなんとか悪の波導を防いだがデルタのペースになってきているぞ！ これはネズミピンチか！？

デルタ

「気合いパンチ！」

ユウキ

「電光石火！」

電光石火を即座にデルタに決めたぞ！ 集中を途切れさせて気合いパンチを防いだか！

デルタ

「やるな。はっけい！」

ユウキ

「雷パンチ！」

はっけいと雷パンチがぶつかり合ったが、ネズミがパワー負けしてしまったぞ！　やはり全てにおいてデルタが上か！？

ユウキ

「勝つのは俺だ！　穴を掘る！」

さあネズミが地中に潜ったぞ！　一体どこから出てくるんだ！？

デルタ

「無駄だぜ。俺には波導を読み取る力がある。どこから来るかおみとおしだぜ」

ユウキ

「いくぞ！」

さあユウキが地中から出てきたぞ！　一気に攻め込むのか！？

デルタ

「そこだ！　波導弾！」

ユウキ

「ぐあっ！」

波導弾がネズミに命中したぞ！　お得意の奇襲攻撃もデルタには通用しないのか！？

デルタ

「これは……本物じゃない！」

ユウキ

「さすがだな……ではいくぞ！」

なっなんと！？ ネズミが地面から四体出てきたぞ！ 先程のは身代わりだったのか！？

デルタ

「この中にも本物はいないか……なら本気を出す必要はないか。メタルクロー！」

襲い掛かるネズミ達にメタルクローで確実に攻撃して消していく！
だがネズミの本体はなにをしているのだろうか？

デルタ

「分身はもういないな……なら本物を叩く！」

ユウキ

「こちら準備は出来た。ここから本番だ！」

さあついにネズミが地中から出てきたぞ！ 更にボルテックスス
タイルになっているぞ！

デルタ

「面白い能力だ——なんだ？」

ん？ デルタの様子がおかしいぞ？ ネズミはなにをしたのでし

よう？

ユウキ

「トラップにかかったな」

デルタ

「なるほど……今の分身になにか仕込んだか」

なるほど、先程のはネズミお得意のトラップだったのですね。これは有利になったのではないでしょうか？

ユウキ

「ライジング・ブレイカー！！」

ここでブレイカーを使用したぞ！ 決まったらかなりのダメージになりそうだ！

デルタ

「なら気合いパンーくっ！」

おっと！ ここで体が痺れたか！？ これはネズミにはラッキーだ！

ユウキ

「うらああー！！」

デルタ

「ぐっ！」

ブレイカーがデルタの顔面を捕らえたぞ！ これはかなりのダメ

ージになったか!?

デルタ

「やるな——なら本気でいくぞ!　メガモード解放!」

なっなんだあ!?!　体から金色のオーラが発生したぞ!　某アニ
メを思い出しますね

デルタ

「ボーンラッシュ!」

デルタの姿が消えたぞ!　また神速を使ったのか!?

ユウキ

「がはっ……」

な、なにい!?!　デルタが一瞬でネズミに接近するとボーンラッ
シュでネズミを地面にたたき付けたぞ!　スピードもパワーも段違
いだ!

ユウキ

「意識が飛びかけたぞ……先程とはまるでちがうな……」

デルタ

「波導弾!」

ユウキ

「守る!」

波導弾をギリギリ守るで防いだが、明らかにデルタに押されてい

るぞ！ このままデルタが勝つか！？

ユウキ

「ボルテックススタイル解除、雷鳴剣・双頭竜展開！」

さあネズミも勝負に出たか、雷鳴剣を二本作り出したぞ！
で両者勝負に出たぞ！

デルタ

「気合いパンチ！」

ユウキ

「フンッ」

右手に持つ剣で気合いパンチを押さえようとしているぞ！
簡単に弾かれてしまうのではないか！？

ユウキ

「……………」

やはり簡単に弾かれたあ！
だがそれにしては弾かれかたが不自然なような……

デルタ

「ちっ勢いを殺されたか！」

ユウキ

「クロスブレード！」

デルタ

「くっ！」

ネズミの雷鳴剣がデルタを捕らえた！　だがあまりダメージがないぞ？　あのメガモードというのは防御も上がるのでしょうか？

デルタ

「頭が切れるな……だがこれで終わりにしよう！」

おっと、デルタがネズミから距離を取ったぞ。大技を叩き込むつもりでしょうか？

デルタ

「ソウルブラスト！！」

うわっ！　まるで破壊光線のような極太の光線がネズミに向かっていくぞ！　デルタから凄い大技が発生したぞ！

ユウキ

「くっ守る！！」

なんとか守るを発動させたが、防ぎきることはできるのか！？

ユウキ

「ぐっ……ああああ！！」

雄叫びをあげながら気合いを入れ直しているぞ！　いけるのか！？

ユウキ

「ハア……ハア……」

防ぎきったぞ！　だが技の衝撃で雷鳴剣が消滅してしまったようだぞ！

ユウキ

「最後の勝負だ！　ボルテッカー！！」

デルタ

「いいだろう！　気合いパンチ！」

お互いの技がぶつかり合ったぞ！　って凄い爆発が起こったぞ！！

リサ

「どうなったの！？」

煙りが晴れてきた……あっ！

ユウキ

「……………」

デルタ

「ハア……ハア……」

ペラップ

「ユウキ戦闘不能！　このバトルデルタの勝ち！」

力尽きたあ！　ついにネズミが力尽きました！　ラストバトルに勝利したのは、デルタです！！

デルタ

「強かったな……………」

お疲れ様でした！

じゃあレオナ、みんなの治療は進んだ？

レオナ

「もうすくだ」

なるべく早くしてね

※数十分後

ユウキ

「なんとか治ったが……ここはなんだ？」↑まだフラフラしている

バトル大会の打ち上げしようかと。たくさん料理用意してもらったんだ！

スताल

「こりゃうまそうだ！」

ピカ

「確かにそうね！」

シアン

「早く食べましょう！」

では皆さん、コップをお手に！ 本日は皆さんお疲れ様でした&mp;来てくれて本当にありがとうございました！

サメハダー

「堅苦しい挨拶はいらねえよ！」

シノビ

「早く食べるでござる！」

アチャモ

「そうだよ！」

では堅苦しい挨拶は抜きにして——みんな！ 今日楽しんでけ
い！！

一同

『おおお——！！』

みんな凄い食べっぷりだな……えっと、これで今回のバトル大会は終わりです。こんな僕なんかの企画に参加してくれた方々、本当に……本当にありがとうございました！！ これからもよろしくお願ひします！

一周年記念バトル大会！Final Round！（後書き）

今回のバトル大会はここまでです。コラボしてくれた方々、本当にありがとうございました！

多分大丈夫だと思いますが、俺のキャラいねえよ！ というのがあったら言ってください

あとバトルがしょぼいや自分のキャラと少し違うというのもあると思います……もっと精進しなくてはいいけないですよ……

オリジナル技紹介

どうも皆さん、ユウキです。今回は、こいつらのオリジナル技の紹介をしようと思います。

ユウキ

「やる必要性あるか？」

かなりあると思う。結構お前はオリジナル技あるしね

リサ

「それは言えてるかも」

でしょ？ というわけではまずはお前からね

ユウキ

「俺か」

ボルテックススタイル

ジンとの特訓の末に体得した肉体強化技。

充電をして貯めた電力を使って、技の威力・精度、ユウキのスピードや防御を上げる。だが、制限時間はあまり長くなく、五分程度。しかも強力な雷を使うと更に時間が短くなる。

ライジング・ブレイカー

ボルテックススタイルになっている時に使える技。簡単に言えば雷パンチの強化版で、充電の時に貯めた電気が多いほど威力も上がる

ライジング・テール
ブレイカーと同じ様に、ボルテックススタイルの時に使える技。一応通常の時も使えなくはないが、あまり威力は出ない。
自分のギザギザなしっぱに雷を溜め込み、相手にたたき付ける技。
電気版のアイアンテールのようなもの。雷を纏っているので、多少の技なら弾くことも出来る。

とりあえず区切ろうか

リサ

「この時点でも多いね」

なんだか僕の計画性の無さが出るな……

ユウキ

「……まあ技が多いと戦略も広がるからありがたいが……」

とにかく次に行くよ！

マーシャル・ボルト

ユウキが通常の状態で使える数少ないオリジナル技。電撃波を自分の真上に打ち上げ、それをアイアンテールで相手に弾くことで、電撃波の威力と、アイアンテールで弾いたことによって生じたスピードで威力を底上げしている。

凡庸性は高いが、打ち上げた電撃波を消されると不発に終わるという弱点もある。

ライジング・トラップ

身代わりの発生技。身代わりを作る時に、自分の電気を組み込むことで、身代わりに物理攻撃を仕掛けた相手を麻痺させることが出来る。

リサとの連携で、身代わりに炎を当てることで、爆発を起こすことも出来る。

この二つは突然思い付いた技なのです

ユウキ

「確かに唐突に使っているな俺」

では次はこいつの代名詞、雷鳴剣シリーズです！

雷鳴剣

ユウキの主力技。自分の電気を形態変化させ、剣の形に変えることで発生させている。充電で貯めた電気を使って精度を上げることも出来る。雷鳴剣の雷を体に戻し、ボルテックススタイルに戻ることも出来る。まったく器用なものである。

きょうめんせつ

鏡面刹雷鳴剣からの発生技。雷鳴剣を使って何度も相手を切り付ける。威力はさほど高くないが、手数が多い。

らせつじん

羅刹陣

雷鳴剣からの発生技。雷鳴剣に更に電気を流し、刃を拡張させることで攻撃範囲を広げ、辺り一帯にあるポケモンを一刀両断する技。

しやうらいごん

召雷斬雷鳴剣からの発生技。雷鳴剣の電気を急速に高めることで、一撃の威力を上げた技。範囲や手数はあまり高くないが、なにぶ

ん一撃の威力が桁違いに高い。

雷壁波

雷鳴剣からの発生技。剣を地面に突き刺し、電気を流すことによって、自分を囲うように電気を発生させることが出来る。主に防御に使うが、広範囲に攻撃も出来る。だがあまり威力は無い。

まあとりあえずこんなものかな？

ユウキ

「よくもまあこんなに思い付くものだ」

じゃあ次は雷鳴剣・双頭竜ね！

雷鳴剣・双頭竜

雷鳴剣の双剣バージョン。雷鳴剣の反動を削減させるために考案した技。

主に手数で攻めるが、雷鳴剣に比べると、どの技の威力も劣っているが圧倒的な手数で攻めるスタイル。

ソードダンス

双頭竜の発生技。踊るようなステップを踏みながら、連続攻撃する。相手にとっては不規則な動きなので、物理攻撃を当てるのが難しくなる。

ガンレイズ・サンダー

双頭竜の発生技。剣の刃の先から小さい雷の球体をたくさん放ち、相手を攻撃する。双頭竜の技の中では威力は最弱だが、範囲は一番広い。

ダブルブレード

双頭竜の発生技。二本の雷鳴剣を重ねることで精度を上げ、一撃の威力を高める。双頭竜の中では威力の高い分類に入る。

まあとりあえずこんなものかな？　では次はリサのオリジナル技にいきます！

リサ

「うんっ！」

ファイヤーレイン

火の粉の発生技。体に炎を大量に溜め込むことで、普通の火の粉よりも威力を高く、範囲を広げた技。用途は広い。

エクス・クロー

両足に炎を溜め込み、相手を引っかくことで、相手周辺に大爆発を起こす。威力も高く、範囲も広い。デメリットも特に無いのでリサが好んで使う技の一つ。

メテオストライク

自分の体に高温の炎を纏わせて相手に体当たりする技。簡単に言えば、フレアドライブの強化版のようなもの。

リサの使える技で最強の威力を誇る技で、しかもフレアドライブのような反動はないが、猛火が発動していて、なおかつ天気が快晴の状態じゃないと使うことが出来ない。

こんなものかな？

リサ

「私もオリジナル技けっこうあるね」

最初は弱虫だったのにね

リサ

「うう……」

ユウキ

「それだけ強くなったということだろう」

リサ

「ユウキ……うん、ありがとう」↑顔赤い

おいしい、勝手にいちゃつくなく

ユウキ

「で、本編更新しないでなぜこっちを？」

最近リアルが忙しくでさ、SPなら簡単に書けるからさ

ユウキ

「とにかく早く更新しろ」

だね。本編の方はもう少しお待ち下さい。では今回はこの辺で！

新夏休み企画！

え〜どうも皆さん、ユウキです。まずお詫びを。前回の企画ですが、友人に見せたところ、

「わかりづらいしつまんなくね？」

といわれ、確かにそうかも……と思い、途中ですが断念することになりました。申し訳ありませんm（　）m

ユウキ

「まあ誰も参加してなかったしな」

まあね。というわけで新企画いきましょう！

まずルール説明を。今回は僕のキャラ達でバトル大会をしたいと思います。皆さんには、その組み合わせを考えてもらいたいのです

リサ

「私達が誰とバトルするかを皆さんに考えてもらうの？」

そゆこと。ちなみに僕のキャラ同士の組み合わせだけでお願いします。

最大で一人三組まで意見出来ます。それ以上は無効になってしまうので注意してください。

あと参加してくれた人限定で、一人だけ僕のポケモンとバトルできます

ユウキ

「なぜ上目線」

ほっとけ。自分のキャラを一人だけ選び、どのキャラとバトルしたいかを選ぶことが出来ます。ちなみにこれは任意なので、やりたくない方はスルーでOKです

リサ

「参加してくれた人へのお礼みたいな感じ？」

そうそう。前回のバトル大会は殆どが僕が決めた組み合わせだったから、今回は皆さんに決めて貰おうって思ったんだ

意見を送る方法は、このSPに感想で書くか、僕にメッセージを送って下さい

期間は今日から八月十六日までとします

ユウキ

「また参加者ゼロだったらどうするつもりだ」

……そんなことないと願いたい。皆さんを僕は信じているので！
よろしくお願いします！

リサ

「あれ？ メモが落ちてる……えっと、もしゼロだった場合、自分で組み合わせを考えてバトルをする……だって」

ユウキ

「……そうならないように願いたい所だ」

リサ

「皆さんよろしく願います！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8978j/>

ポケモン不思議のダンジョン 誓い SP

2011年10月6日14時20分発行